

令和 7 年 3 月

四日市市社会福祉協議会 第 7 次地域福祉活動計画



社会福祉法人 四日市市社会福祉協議会

はじめに

近年、少子高齢化や核家族化等が一層進行し、個人の生活様式や価値観などが多様化する一方で、地域住民のつながりの希薄化、物価上昇等による格差の拡大、コロナ禍で顕在化した新たな地域課題など地域社会を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような社会情勢を背景に、社会的に孤立する世帯の増加、8050 問題、ひきこもりなど、地域住民が抱える複雑化・複合化した福祉課題は増大しています。こうした状況において、だれもが自分らしく社会に参加しながら、住み慣れた地域で暮らし続けられる地域共生社会の実現が、これまで以上に求められており、私たち四日市市社会福祉協議会が地域の皆さまや関係団体とともに取り組む地域福祉活動にも大きな期待が寄せられています。

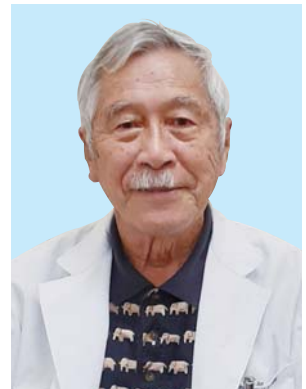
これらを受け、本会は、令和7年度（2025 年度）から令和 11 年度（2029 年度）までの5年間を計画年度とした『第7次四日市市地域福祉活動計画』を策定いたしました。

本計画は、市が策定した『第5次四日市市地域福祉計画』の地域福祉分野における行動計画として、第6次地域福祉活動計画の基本理念や方針を継承しつつ、新たな地域課題の解決に向けて見直しを行いました。地域住民の立場から、地域福祉活動を主体的に進めていくことに力点を置き、これからの人づくり・地域づくりについて取りまとめています。

今後は、本計画の実施に向けて本会職員一同、一丸となって「安心して暮らし続けることができる福祉のまちづくり」の実現に向けた取り組みを推し進めてまいります。どうか、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたり、ご協力いただきました関係団体及び市民の皆さまと、本計画策定委員長の立教大学原田教授をはじめとする策定委員の皆さまに深くお礼申し上げます。

令和7年3月
社会福祉法人 四日市市社会福祉協議会
会長 伊藤 八峯



目 次

はじめに

第1章 計画策定の背景

- 1. 計画策定の趣旨..... 1
- 2. 計画の位置づけ..... 2
- 3. 計画の期間..... 2

第2章 本市の地域福祉活動の概況

- 1. 各種アンケートから見た地域福祉の現状..... 3
- 2. 地域福祉活動に関わる主な実績と課題..... 11
- 3. 本計画策定に向けた課題のまとめ..... 16

第3章 計画の基本的な考え方

- 1. 基本理念..... 18
- 2. 基本方針..... 18
- 3. 基本目標..... 19
- 4. 施策の体系..... 20

第4章 地域福祉活動の具体的な取り組み

- 1. すべての人が暮らしやすいまちづくりに向けて..... 21
- 2. すべての人を支える福祉のまちづくりに向けて..... 32
- 3. 笑顔と楽しみがあふれるまちづくりに向けて..... 37
- 4. 自ら幸せを生み出すまちづくりに向けて..... 45
- 5. 安心して相談できるまちづくりに向けて..... 50

第5章 各地区における地域福祉活動の取り組みについて

- 1. 地域福祉カルテについて..... 53
- 2. 各地区の地域福祉カルテ..... 55

第6章 四日市市社会福祉協議会の基盤強化

- 1. 社会福祉協議会の使命・役割..... 73
- 2. 法人運営基盤強化..... 76

第7章 計画の推進にあたって

- 1. 市地域福祉計画との一体的な推進..... 80
- 2. 計画の進行管理..... 81

おわりに

- 巻末資料 83

第1章 計画策定の背景

1. 計画策定の趣旨

四日市市社会福祉協議会（以下、「四社協」といいます。）においては、これまで6次にわたる地域福祉活動計画の改訂を経て、地域の福祉課題を抽出し、計画のバージョンアップを図ってきました。しかしながら、福祉課題が複雑化・複合化する中で、従来の枠組みを超えた多機関協働の必要性から、地域福祉計画及び地域福祉活動計画に求められる役割が増大しています。

第6次地域福祉活動計画の策定（令和元年度）に前後して、社会福祉法の改正（平成30年、令和3年）が行われました。平成30年の改正においては、地域共生社会の実現に向けて、制度・分野の枠や「支える側」「支えられる側」という従来の関係を越えて、つながり、助け合いながら暮らすことのできる地域社会をつくるという考え方が示されました。また、地域福祉計画が市町村の福祉各分野の上位計画として位置づけられ、包括的な支援体制づくりを進めることとなりました。

令和3年の改正においては、新たに重層的支援体制整備事業が創設されました。「8050問題」やひきこもりなど何らかの生きづらさを抱える人に対し、本人の視点に立った伴走支援を行うため、属性や世代を問わない相談や、誰もが交流できる場所の提供、多様な社会参加を通じた継続的な支援体制の構築をめざすことになりました。

地域共生社会の実現に向けては、行政による公的支援・サービスと、地域住民等による福祉活動との両輪が機能することが求められており、地域における具体的な地域福祉活動の推進を図っていくことが不可欠です。一方で、地域は均質ではなく、置かれている条件も持っている社会資源も異なることから、福祉課題に立ち向かうアプローチの仕方も一律ではありません。

こうした状況の中で、四社協には、複雑化する福祉課題に包括的に対応するべく、支援体制を構築することと合わせて、地域の実情に応じて地域福祉活動が展開されるようコーディネートする役割が求められています。それらを推進するため、新たに「第7次四日市市地域福祉活動計画」（以下、「本計画」といいます。）を策定します。

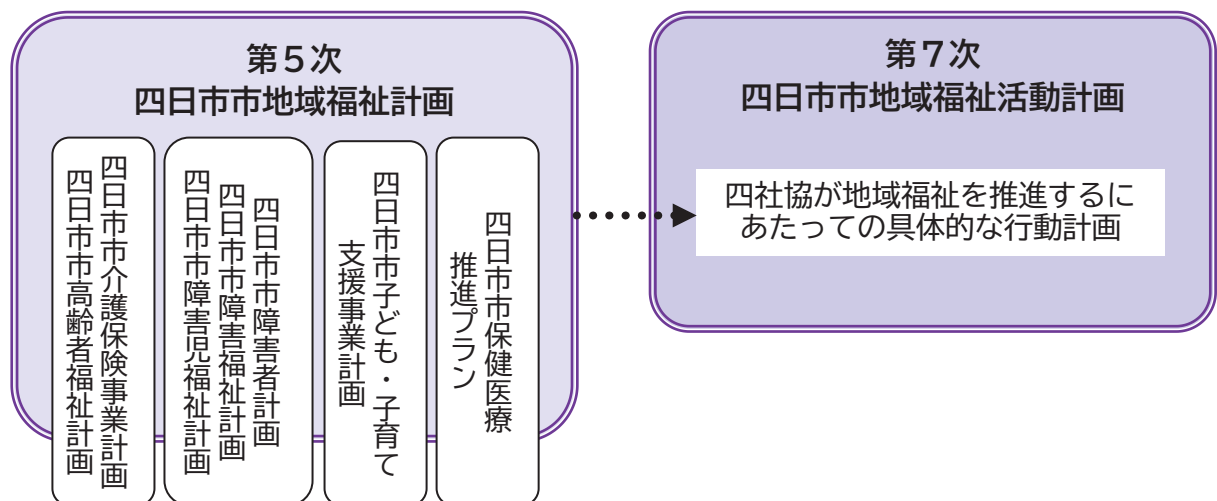
2. 計画の位置づけ

四日市市において令和5年度に策定された「第5次四日市市地域福祉計画」（以下、「市5次計画」といいます。）では、前述の社会福祉法の改正や市総合計画の策定を受け、基本理念、基本目標、施策体系が大きく見直されました。なお、市5次計画においては、「四日市市地域福祉活動計画」を『地域福祉を推進するにあたっての具体的な行動計画』と位置づけ、『連携を図りながら地域福祉を推進』することを明示しています。

また、全国社会福祉協議会において、「社会福祉協議会基本要項 2025」が取りまとめられ、時代のニーズに呼応した社会福祉協議会の使命や活動原則、機能などが示されました。

このため、本計画は、市5次計画との整合性を図るべく、基本目標を共通のものとして取り組みの方向性を打ち出すとともに、「社会福祉協議会基本要項 2025」が謳う社会福祉協議会の使命、活動原則、機能を踏まえて四社協の取り組み内容を定めることとします。

■ 計画の位置づけ イメージ



3. 計画の期間

本計画の計画期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

これは、市5次計画が令和6年度から令和10年度までの計画であるため、その基本的な考え方を受け、整合を図り、1年遅れの計画期間とするものです。

年度	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)
市計画	策定	第5次四日市市地域福祉計画						
本計画		策定	第7次四日市市地域福祉活動計画					

第2章 本市の地域福祉活動の概況

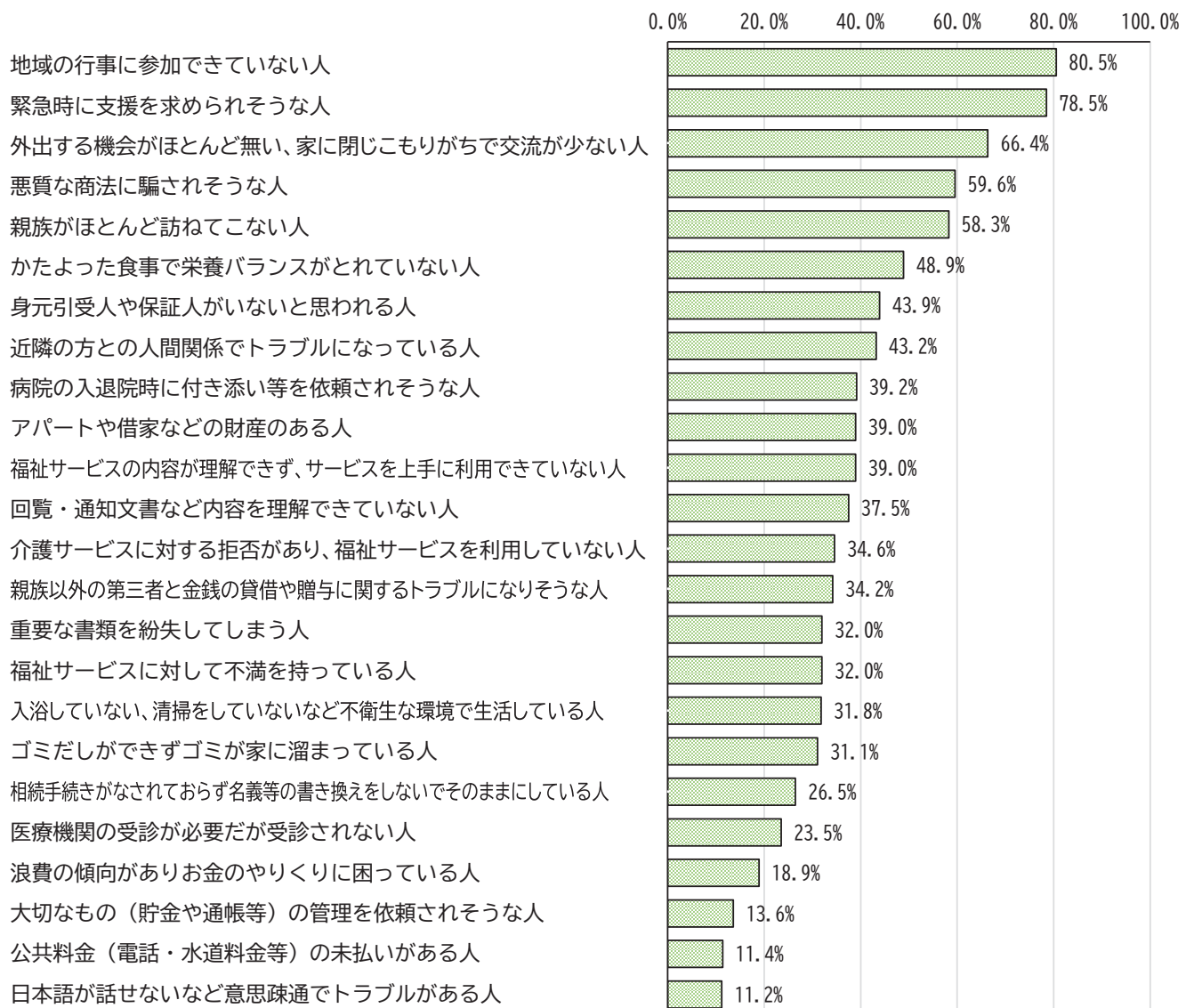
1. 各種アンケートから見た地域福祉の現状

(1) 民生委員児童委員アンケート

四社協では、民生委員児童委員に対し、地域で活動する中で「困りごとや不安を抱える人」がどれぐらいいるかを訊いたアンケートを経年的に実施しています。

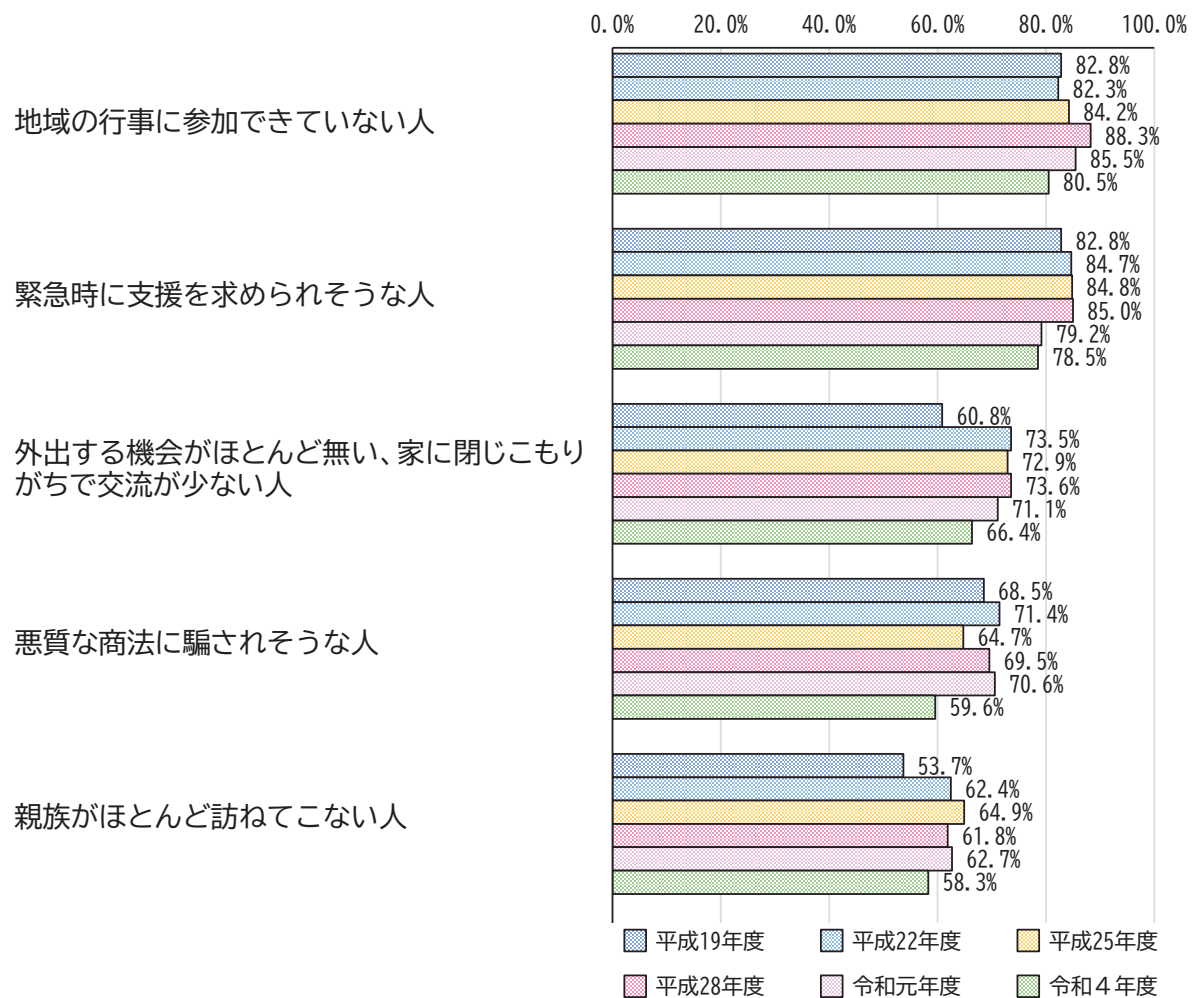
「地域で生活する中での困りごとや不安を抱える人」について（令和4年度調査）

【回答者数=544人】



資料：「地域で生活する中での困りごとや不安を抱える人に関するアンケート」より

地域で生活する中での困りごとや不安を抱える人に関するアンケート（上位意見の推移）



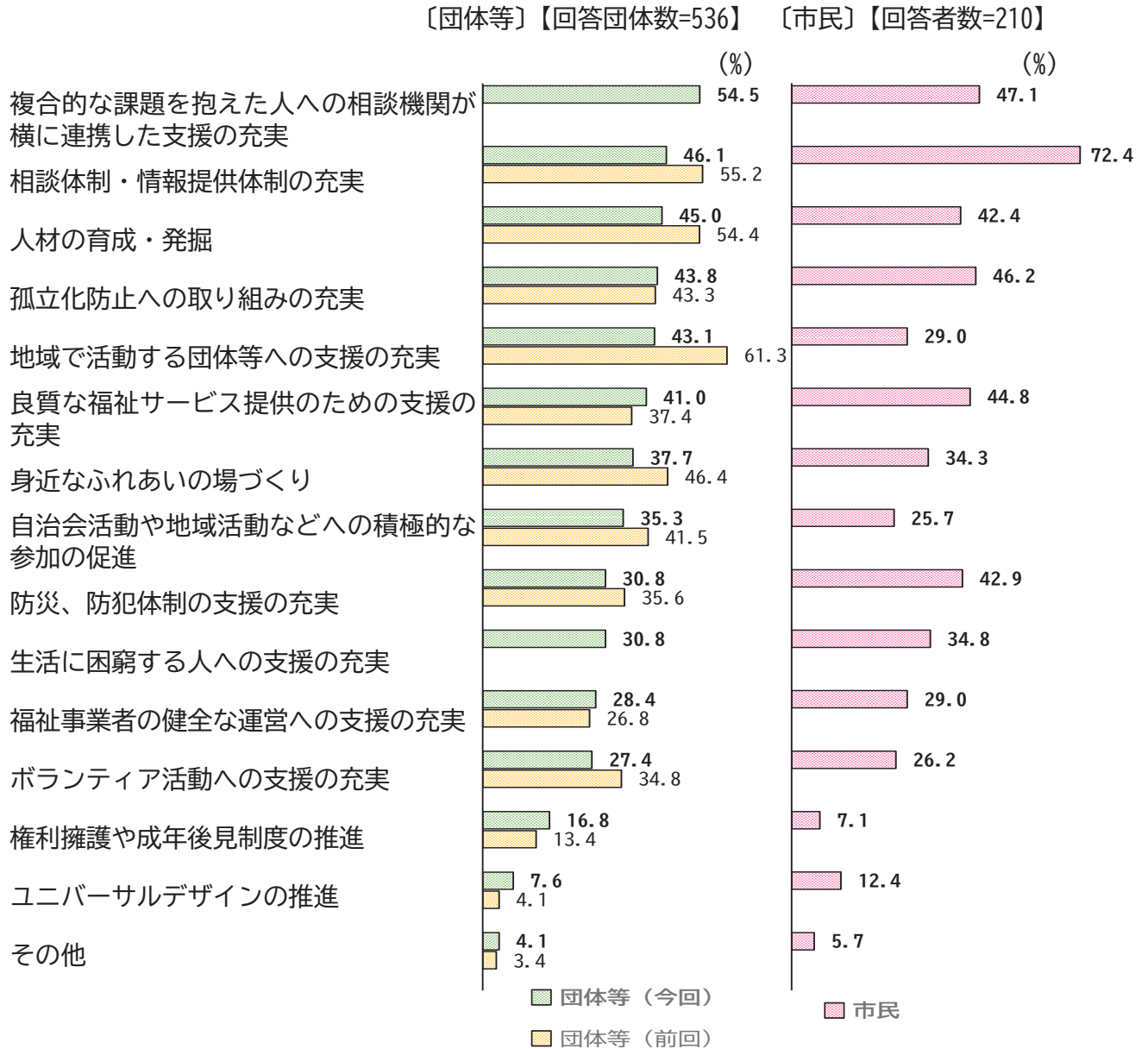
資料：「地域で生活する中での困りごとや不安を抱える人に関するアンケート」より

アンケート結果によると、6回の調査時点を通して、上位5項目は変わらず、「地域の行事に参加できていない人」、「緊急時に支援を求められそうな人」、「外出する機会がほとんどない、家に閉じこもりがちで交流が少ない人」、「悪質な商法に騙されそうな人」、「親族がほとんど訪ねてこない人」の割合が多くなっていますが、いずれも徐々に少なくなる傾向にあります。

(2) 地域福祉に関するアンケート

令和5年度に四日市市が地域福祉に関わる団体・事業所等を実施した「四日市市の地域福祉に関するアンケート」から、地域福祉を推進していく上で、重要だと思われる項目をピックアップします。

地域福祉を推進していく上で、市が実施する施策として重要だと思われる項目



資料：「四日市市の地域福祉に関するアンケート調査結果報告書」より

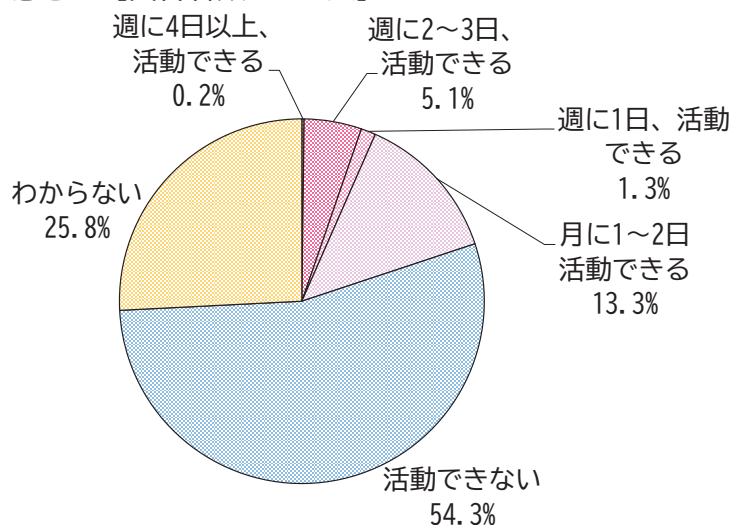
アンケート結果によると、地域福祉を推進していく上で、市が実施する施策として重要だと思われる項目については、団体等では「複合的な課題を抱えた人への相談機関が横に連携した支援の充実」が、また市民では「相談体制・情報提供体制の充実」が最も高く、団体等、市民の両方でこれらが1位、2位の回答となっています。

(3) 高齢者介護に関するアンケート

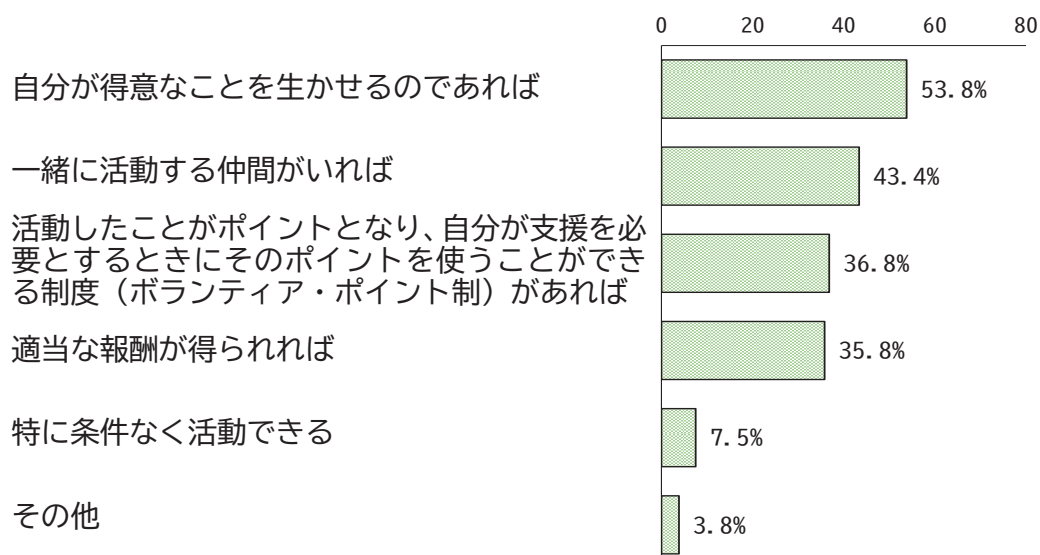
令和4年度に四日市市が実施した「高齢者介護に関するアンケート」から、地域福祉に関わる課題をピックアップします。なお、アンケートの種別として、要介護者を除く65歳以上の人への「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（以下、「ニーズ調査」といいます。）」、40～64歳の人への「若年者調査」、在宅で生活する要介護者への「在宅介護実態調査」があります。

ボランティア活動への意思と参加条件（若年者調査）

ボランティア活動への意思 【回答者数＝532人】



ボランティア活動への参加条件 【回答者数＝106人】

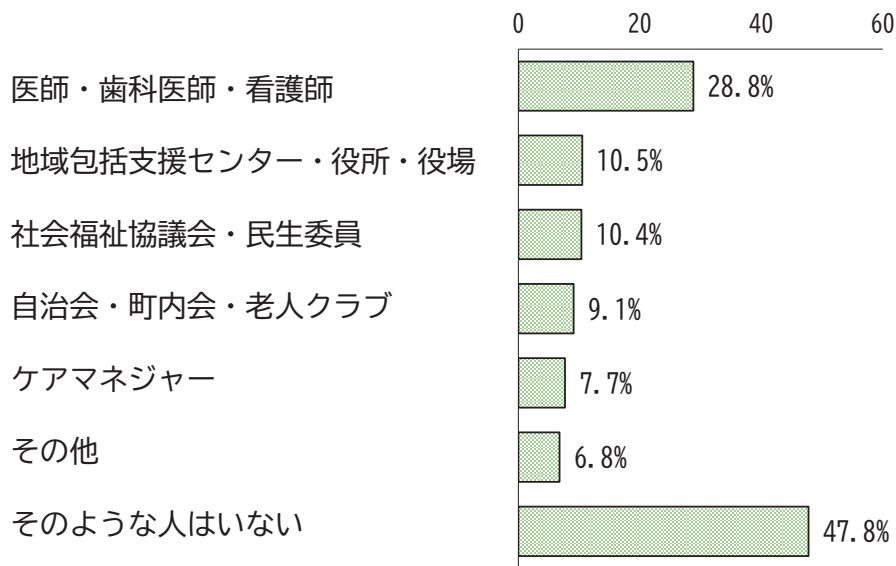


資料：「四日市市高齢者介護に関するアンケート調査結果報告書」より

アンケート結果によると、ボランティア活動に対し、40～64歳の人では約20%が活動できるとし、活動条件として、「得意なことを生かせること」と「仲間」の割合が多くなっています。

家族や友人・知人以外の相談相手（ニーズ調査）

【回答者数=1,399 人】

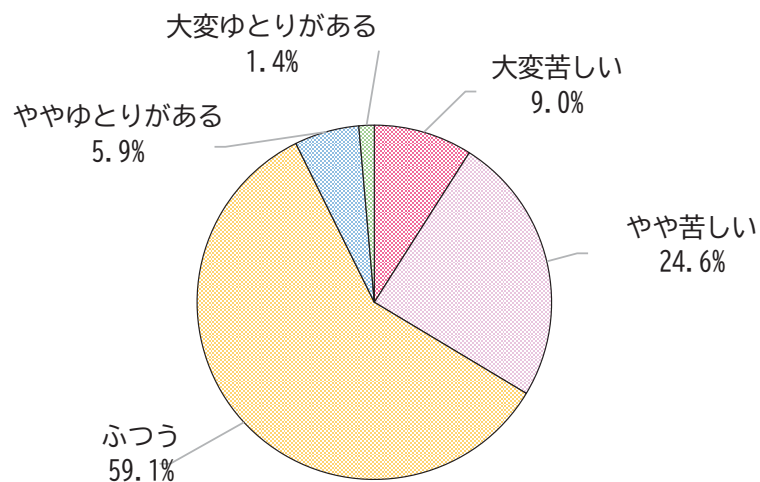


資料：「四日市市高齢者介護に関するアンケート調査結果報告書」より

アンケート結果によると、家族や友人・知人以外の相談相手が「いない」という人が 65 歳以上の人（要介護者を除く）の約 50%に上ります。

現在の暮らしの経済的状況（ニーズ調査）

【回答者数=1,434 人】

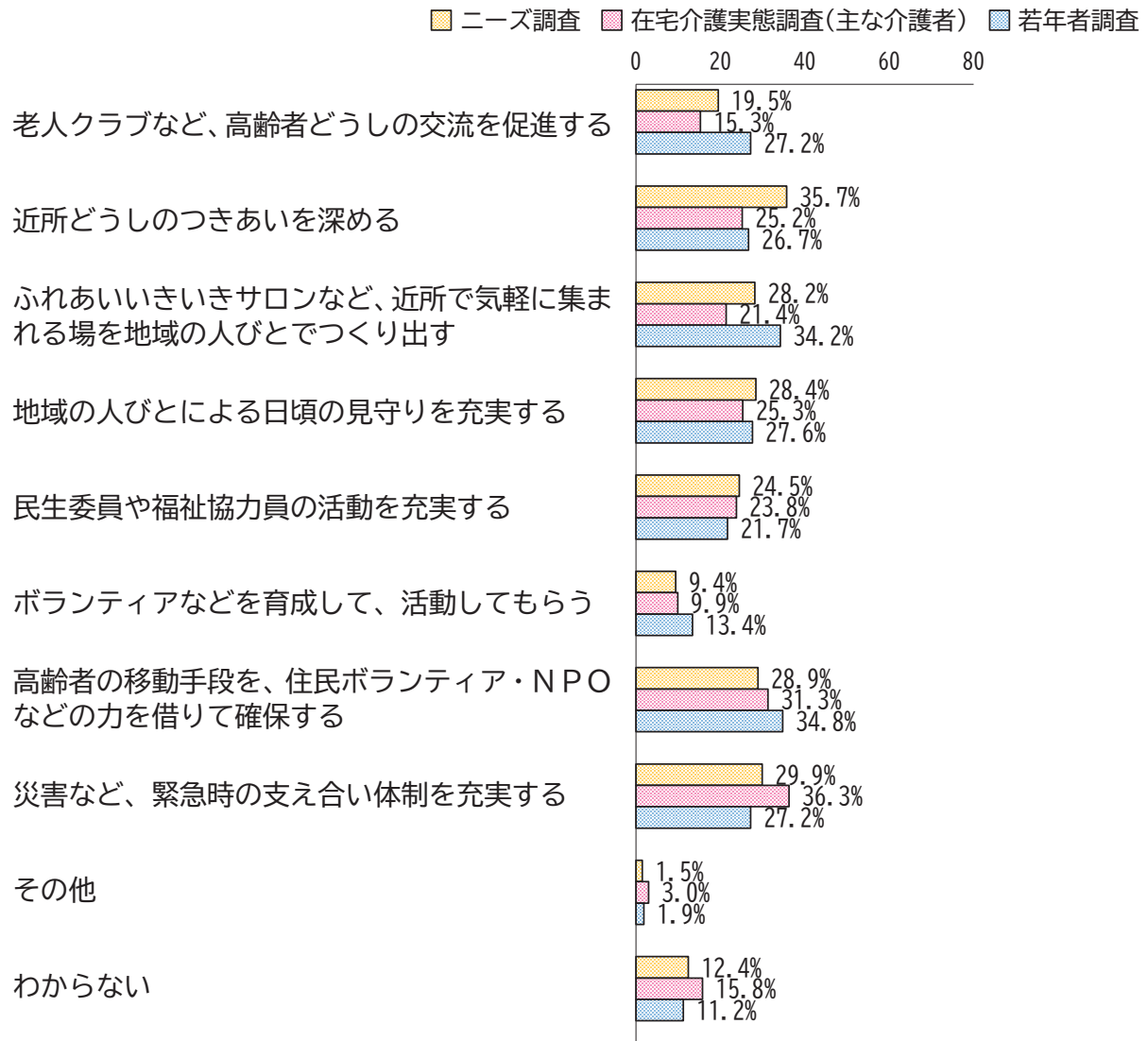


資料：「四日市市高齢者介護に関するアンケート調査結果報告書」より

アンケート結果によると、現在の暮らしの経済的状況について、65 歳以上の人（要介護者を除く）の 9%が「大変苦しい」、約 25%が「やや苦しい」としています。

住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために重要なこと

【回答者数／ニーズ調査＝1,423 人、在宅介護実態調査＝576 人、若年者調査＝529 人】



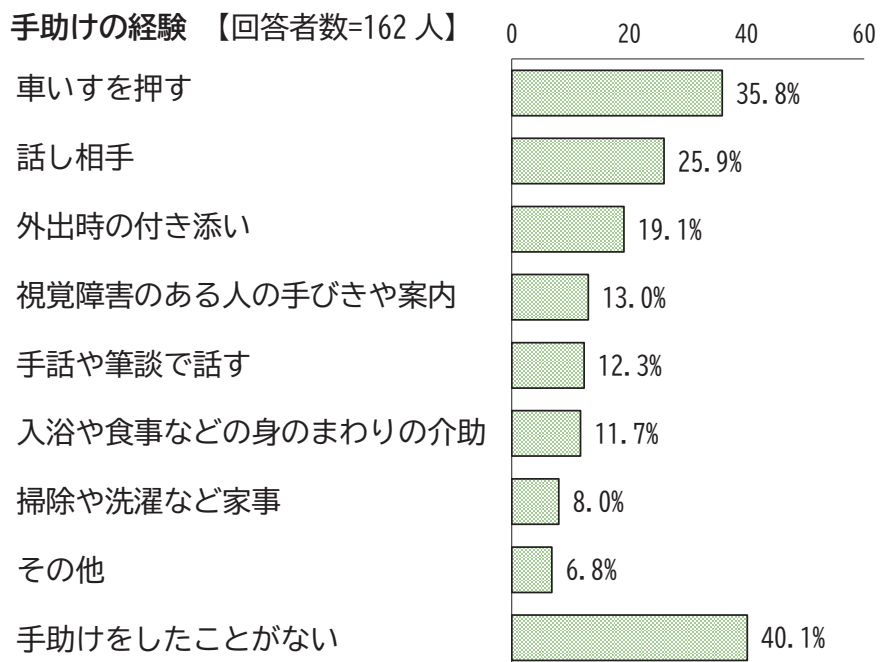
資料：「四日市市高齢者介護に関するアンケート調査結果報告書」より

アンケート結果によると、住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために重要なこととして、「近所どうしのつきあい」や「緊急時の支え合い」、「移動手段」、「近所で気軽に集まれる場」、「日頃の見守り」などの割合が多くなっています。

(4) 障害者計画のためのアンケート

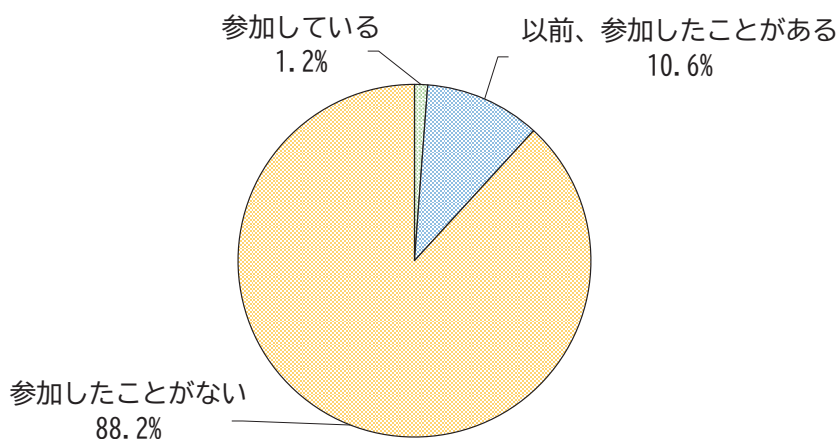
令和4年度に四日市市が実施した「障害者計画のためのアンケート」から、地域福祉に関わる課題をピックアップします。なお、アンケートの種別として、18歳以上の障害者手帳所持者への「障害者調査」、18歳未満の障害者手帳所持者への「障害児調査」、その他の20歳以上の市民への「市民調査」があります。

障害者への手助けとボランティアへの参加経験（市民調査）



資料：「四日市市障害者計画のためのアンケート調査結果報告書」より

ボランティアへの参加【回答者数=161人】

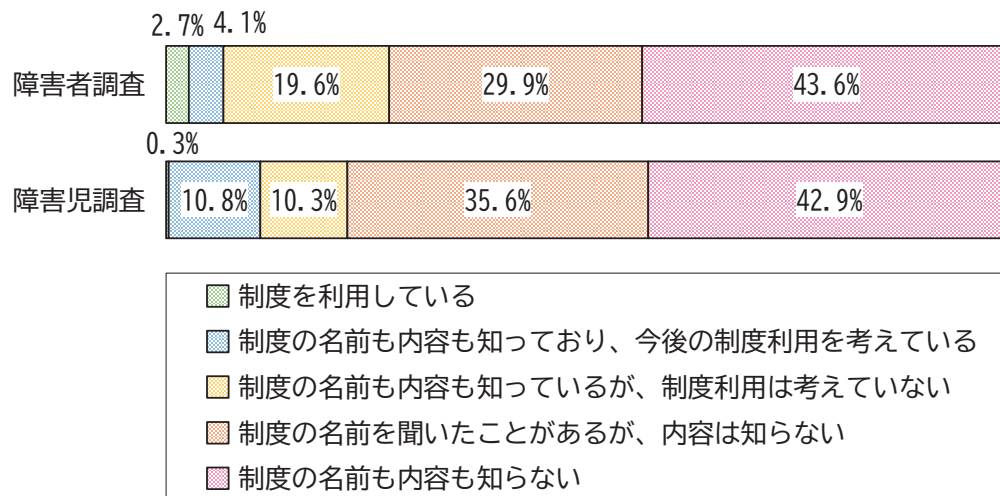


資料：「四日市市障害者計画のためのアンケート調査結果報告書」より

アンケート結果によると、約40%の人が障害者に手助けをしたことがなく、ボランティアへの参加経験も約10%にとどまります。

成年後見制度への認知度

【回答者数／障害者調査=628 人、障害児調査=331 人】



資料：「四日市市障害者計画のためのアンケート調査結果報告書」より

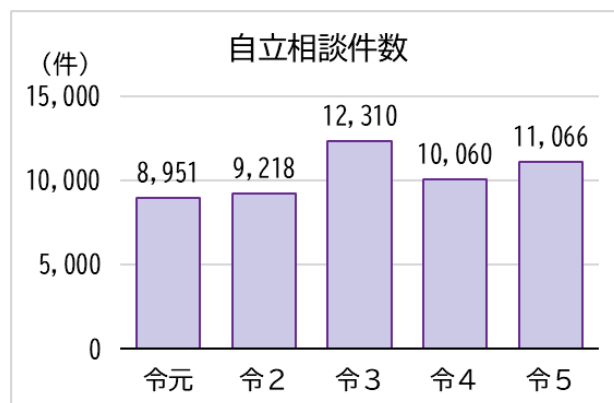
アンケート結果によると、成年後見制度への認知度について、障害者調査では43.6%、障害児調査では42.9%が「制度の名前も内容も知らない」としています。

2. 地域福祉活動に関わる主な実績と課題

第6次計画期間中における地域福祉活動の状況と、四社協の取り組み実績及びその課題を整理します。

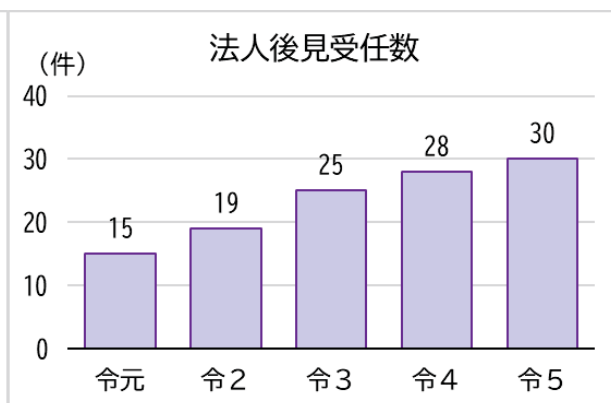
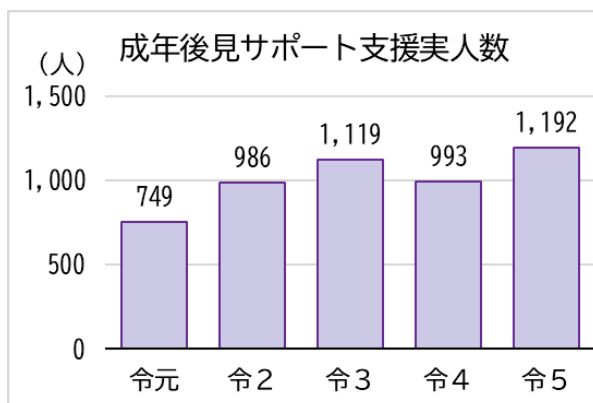
●日常生活自立支援事業

三重県社協から受託し、判断能力に不安があり、契約内容の一部を理解できる高齢者や障害者を対象に福祉サービスの利用援助や金銭管理・書類預かりサービスを行っています。利用者数は令和3年度をピークに減少していますが、依然年間10,000件を超える相談があり、今後も体制強化が望まれます。十分な支援を行うことができる体制を整備するためには、財源も含めた検討が必要です。



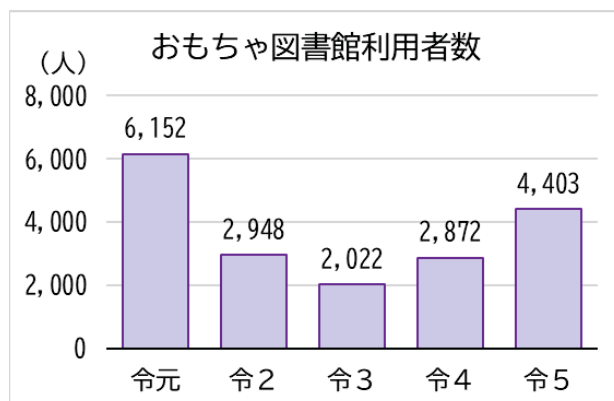
●成年後見事業

市や福祉・司法関係機関との連携を図り、成年後見に対する相談や成年後見制度を必要とする人への支援を行っています。法人後見受任数は毎年増加しており、今後も課題を抱える人に対して、後見人となり支援を進めていくことが求められます。



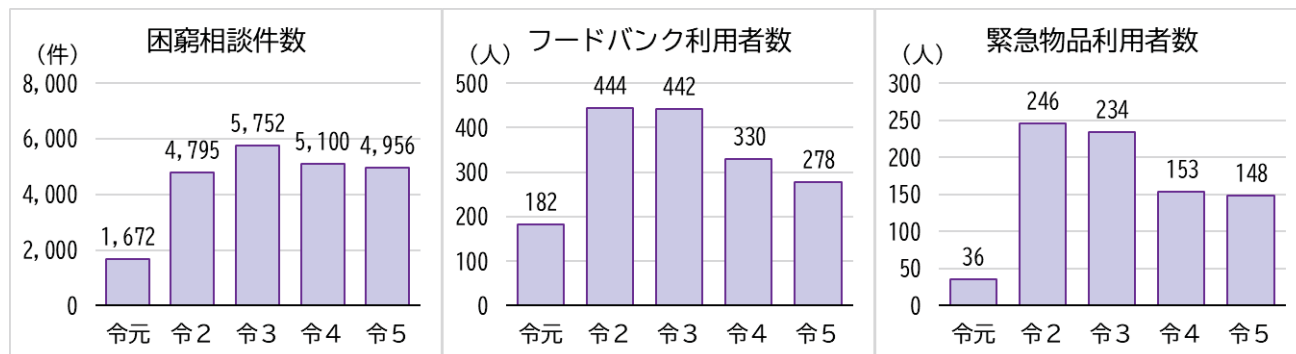
●おもちゃ図書館事業

四社協の中で数少ない子育てに対する支援であり、市から受託して運営しています。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で令和2年からの3年間は休館を余儀なくされ、利用が激減しましたが、今後も子育てを支援する事業として引き続き事業実施することが求められます。



●生活困窮者自立生活支援事業

令和元年度より、市からの受託事業として生活困窮者自立支援事業を行っています。令和2年度から新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり、生活困窮者が増加し、相談件数が増えました。今後、「緊急小口資金等の特例貸付（以後、「コロナ貸付」という）」を利用した人への支援もあり、ますます事業の必要性が高まることから、他の制度も活用しながら生活困窮者の支援に努める必要があります。



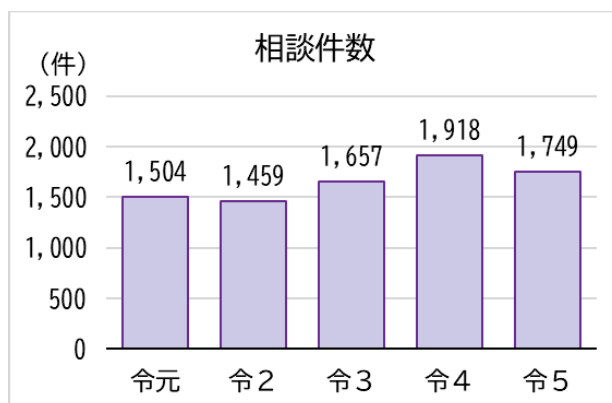
●資金貸付事業

三重県社協からの受託事業で、生活困窮者に対し様々な資金をお貸しする事業です。令和2年度からの新型コロナウイルス感染症の拡大のため「コロナ貸付」が新設され、多くの方が相談、貸付を利用されました。コロナ貸付は終了しましたが、引き続き、滞納者への相談支援など今後も利用者に関わっていくことが求められます。



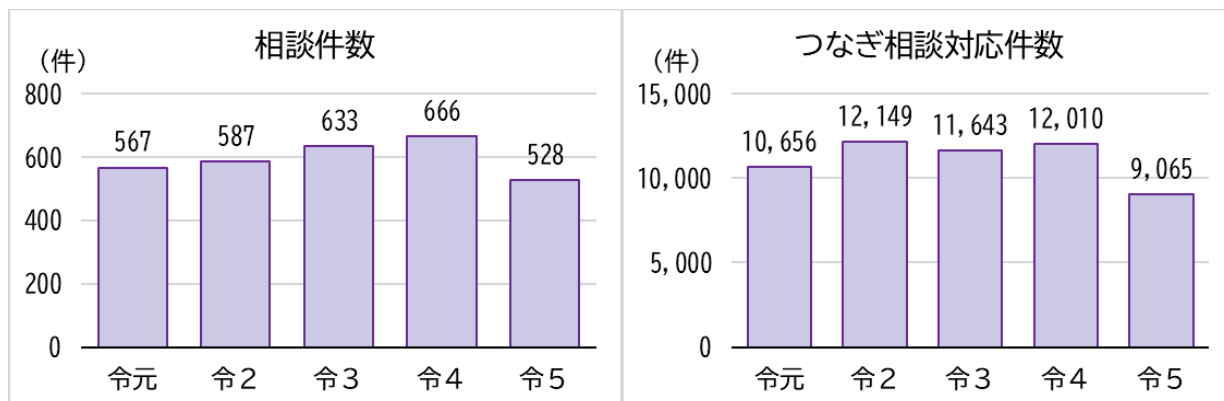
●くす在宅介護支援センター総合相談事業

楠地区を担当エリアとし、高齢者の各種相談に応じています。令和元年度からは訪問給食事業、令和4年度からはアウトリーチ支援事業、令和5年度からは健康不明者把握事業を開始しています。



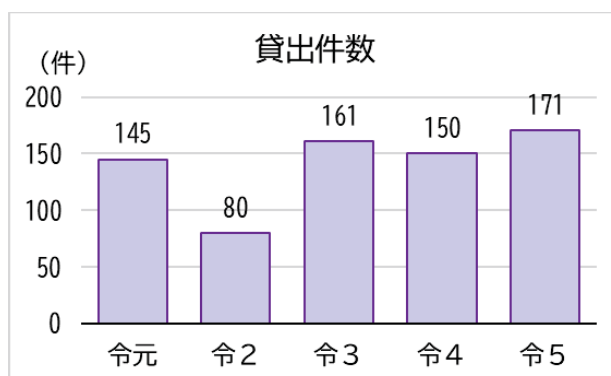
●包括的相談窓口

包括的な相談窓口として、解決が難しい相談も含めて、関係機関につなぐプラットフォーム的な役割を担っています。しかし、相談内容が多様化し、問題が複雑化・複合化してきており、新たな支援体制の構築が求められています。



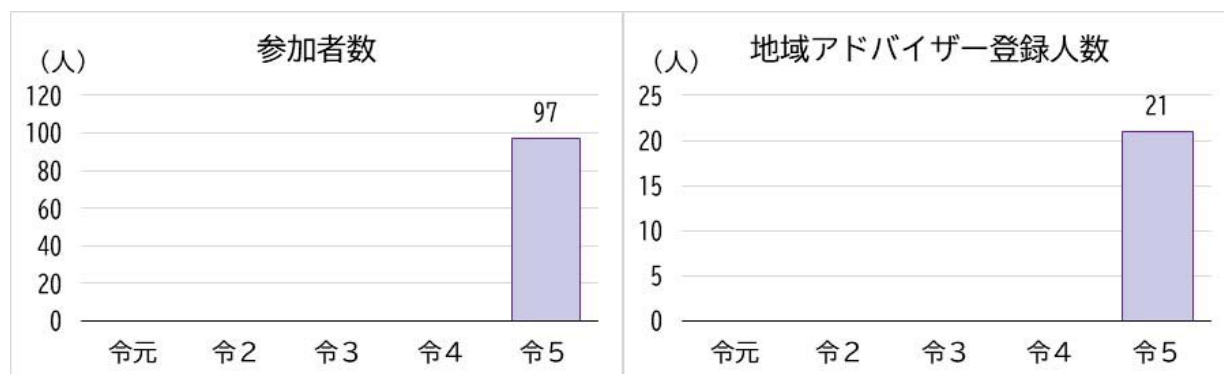
●車いす貸出事業

市民・企業などから寄贈いただいた車いすを活用し、一時的に車いすを必要とする市民に短期貸出をしています。今後は、より身近で使えるよう、利便性の向上が求められます。



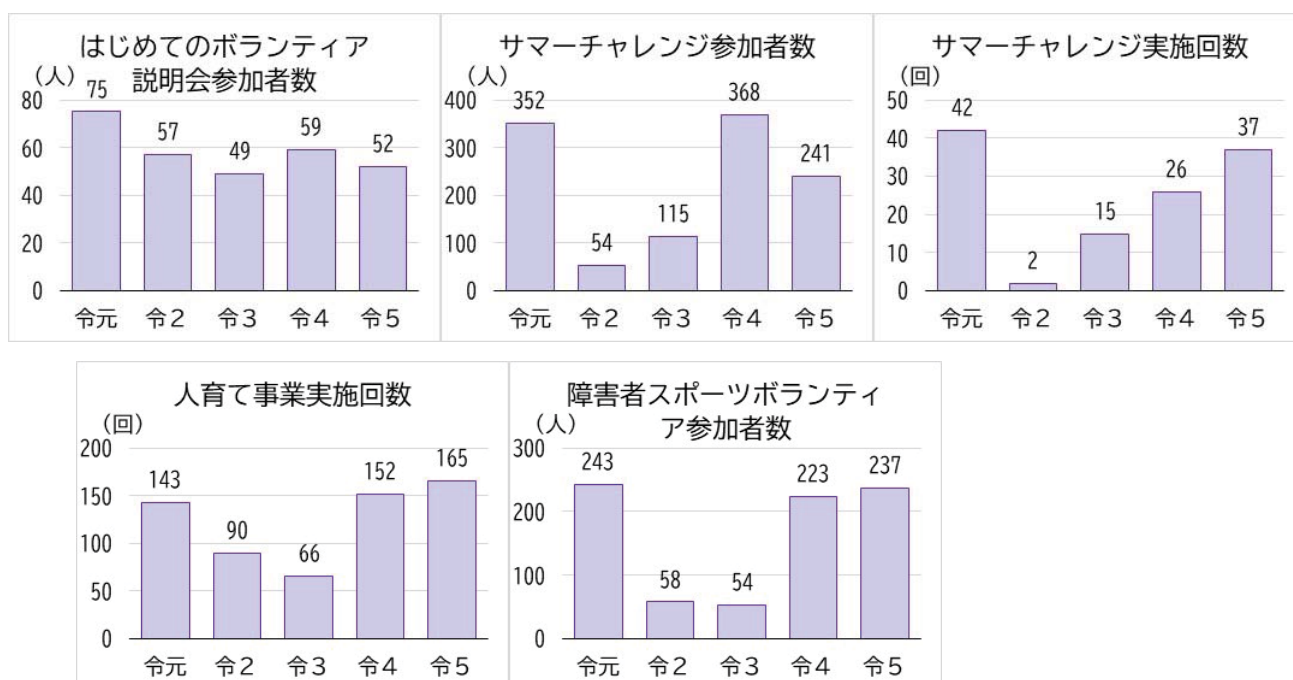
●災害ボランティアセンター地域アドバイザー事業

市から受託し、令和5年度から、地域と災害ボランティアセンターの調整・相談役となる地域住民や福祉関係者を養成しています。いつ起こるか分からない災害に備え、災害ボランティアの中心となる人材の育成は急務となっています。



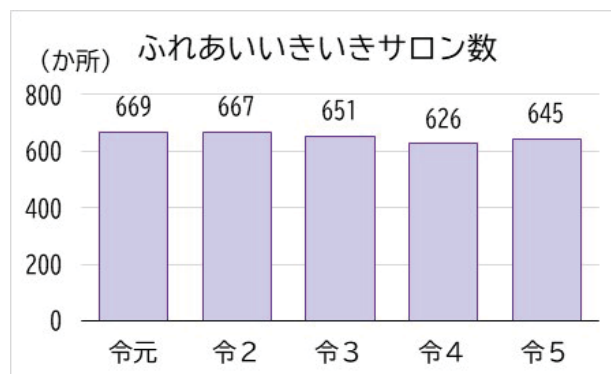
●ボランティアのまちづくり事業

様々な事業を通してボランティアの啓発を行っています。ボランティアを始めたいという人に対しては「はじめてのボランティア説明会」を開催しています。小学生・中学生等に対しては「福祉教育推進事業」にて講師派遣やプログラムの提案をしています。高校生・大学生等に対しては「サマーチャレンジ」を開催し、夏休み期間中に参加できるメニューを用意しています。地域でのボランティア活動に関心のある人に対しては「人育て事業」において福祉に関する知識や情報を学ぶ機会を提供しています。その他、障害者と交流しスポーツを体験できる場として「障害者スポーツボランティア講座」を開催しています。今後ますます地域福祉活動を支える人材の確保が求められることから、ボランティアに対する意識を高め、参加を呼びかけていくことが必要です。



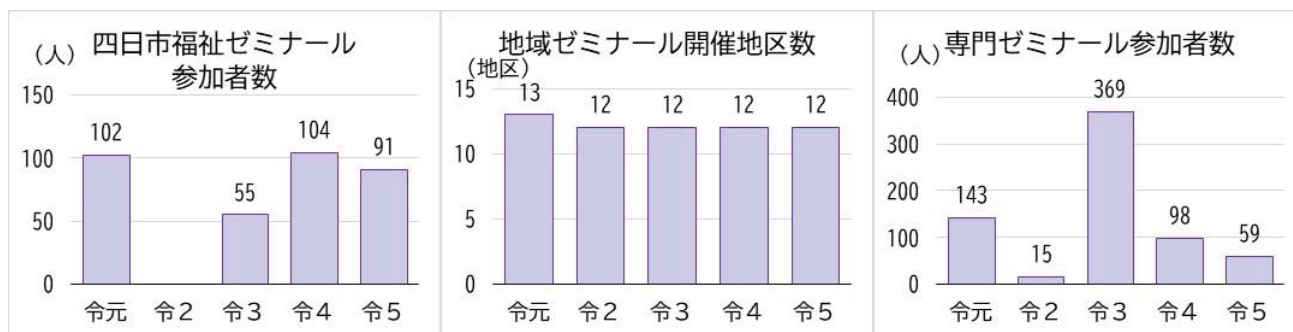
●ふれあいいいききサロン

市から受託し、ふれあいいいききサロン推進員を中心に、サロン活動が継続できるよう相談支援や情報提供を実施しています。新型コロナウイルス感染症の拡大の際は、「感染症拡大予防ガイドライン」を作成し、事業が継続できるよう工夫しました。670 サロンを目標としており、立ち上げと運営の支援を進める必要があります。



●福祉教育大学

四日市福祉ゼミナールは、市民を対象に福祉活動の基礎を学んでいただくことを目的に開催しています。地域福祉ゼミナールは福祉協力員が組織化されている地区社会福祉協議会において、福祉課題の共有と解決策を見出すことを目的に開催しています。専門ゼミナールは、福祉人材の養成を目的として開催しています。参加者数は年度によるばらつきがありますが、今後も、それぞれのゼミナールの役割を踏まえ、より一層、参加を促していくことが求められます。



●なるほど出前講座

福祉制度等の情報を分かりやすく発信するため、地域や企業、学校等に四社協の職員が出向いて情報提供する出前講座を開催しています。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で依頼が減少しましたが、令和5年度は回復傾向にあり、今後も、地域の要請に応じて、情報提供の場として開催することが求められます。



3. 本計画策定に向けた課題のまとめ

地域福祉に関するアンケートや他のアンケート結果、第6次計画期間における地域福祉活動の状況などから、第6次計画の体系に沿って、次の通り課題を整理します。

課題1 情報がつながる「しくみ」について

四社協では、福祉の支援につなげるため、また福祉活動を支えるために、福祉情報の発信とともに、地域に出向いた出前講座を通じて、情報提供を行ってきました。新型コロナウイルス感染症拡大時は、対面による情報伝達の制約を受けたこともあり、出前講座の参加者数が減少した一方で、リモート形式など新たな手段を用いた情報の受発信も可能となってきており、こうした時代の流れに応じた福祉情報の発信・提供のあり方を見出していくことが求められます。

課題2 活動につながる「ひと」について

四社協では、福祉教育大学などを通じた意識啓発と人材育成、サマーチャレンジなどを通じたボランティア活動参加へのきっかけづくり、実習受け入れなどによる専門的な福祉人材の養成といった「人づくり」を進めてきました。しかしながら、就労年齢引き上げにより、地域においては担い手不足が深刻化しています。今後、現役世代も減少することが見込まれる中で、地域の誰もが「我が事」として福祉に関わる意識を高めるとともに、持続的な活動を支えるための人材を確保・育成していくことが求められます。

課題3 多様な主体がつながることでの「あんしん」について

四社協では、市から介護や障害福祉にかかる相談・支援のほか、成年後見や生活困窮者の自立支援にかかる事業を受託しています。これらの事業では、相談者一人ひとりに寄り添い、必要に応じて他機関とも協働しながら、伴走型の支援を行っています。一方、市では令和5年度より重層的支援体制整備事業を開始し、制度の狭間にある人や複雑で複合化した課題を持つ人に対応すべく、相談支援体制を構築しています。今後、ひとり暮らしの増加や地域のつながりの希薄化などを背景に、複雑・複合化した課題はますます増えると考えられることから、きめ細かな支援が提供できるよう、効果的・効率的な体制づくりを進めることが求められます。

課題4 地域でつながる「わ」について

四社協では、生活支援コーディネーターをエリアごとに配置し、地区社会福祉協議会や民生委員児童委員などとのつながりの中で、地区単位、自治会等の小地域単位などの福祉活動が活発化していくよう、活動支援を行っています。しかし、活動の担い手が固定化・高齢化するなど、今後も持続的に活動が展開できるかどうかは不透明な状況です。人づくりと合わせて、組織の強化やネットワーク化、さらには福祉事業所やボランティア・市民活動団体などとの連携も含め、地域の社会資源を有機的につなぎ合わせ、持続可能な活動にしていくことが求められます。



第3章 計画の基本的な考え方

1. 基本理念

本計画においては、これまでの計画に引き続き、次の基本理念を掲げます。

安心して暮らしつづけることができる『福祉のまちづくり』

2. 基本方針

基本理念のもとで様々な事業、取り組みを進めるにあたって、次の基本方針を掲げます。

- ① 生活課題や福祉情報の把握に努め、地域の社会資源も活用しながら、時代とニーズに即した事業を展開します。
- ② 市民や利用者の人権を尊重し、権利擁護と自立支援につなげるためのサービスを提供します。
- ③ 様々な活動者や団体等と連携・協働し、災害時や緊急時にも備えてふだんから地域で支え合えるつながりを構築します。
- ④ 各部署が横断的に連携し、専門職による多機関の連携とアウトリーチを通じた包括的な相談支援の窓口として問題解決に努めます。

3. 基本目標

基本理念、基本方針のもとでめざす「基本目標」として、市5次計画の基本目標との整合を図りつつ、次の5つの基本目標を持って取り組みを進めます。

① すべての人が暮らしやすいまちづくりに向けて

地域に暮らす誰もが、かけがえのない人として尊重され、誰一人取り残されたり排除されたりすることなく、社会とつながっていけるよう支援を充実させるとともに、支援者をつなぐ協働のネットワークを構築します。

② すべての人を支える福祉のまちづくりに向けて

市民が安心して福祉サービスを利用できる環境を整えるため、専門機関である福祉事業者のネットワークを強化し、人材育成やスキルアップにつながる取り組みを進めます。

③ 笑顔と楽しみがあふれるまちづくりに向けて

地域に根差した活動のきっかけづくりと新たな活動者層との連携を強化できるよう、福祉意識を高める啓発や教育を進めるとともに、地区や小地域など様々な単位での福祉活動を支援し、「地域の福祉力」の向上を図ります。

④ 自ら幸せを生み出すまちづくりに向けて

「福祉のまちづくり」につながる「人與人」「人と活動」をつなぐため、多様な媒体の活用による情報の受発信を充実させるとともに、様々な形での社会参加と交流の機会づくりを進めます。

⑤ 安心して相談できるまちづくりに向けて

すべての人が、誰かとつながっている安心感を持って暮らすことができるよう、福祉の専門機関、民生委員児童委員や当事者団体と連携しながら、「断らない相談窓口」の体制整備に取り組みます。

4. 施策の体系

〈基本理念〉	〈基本目標〉	〈具体的な取り組みの方向性〉
『安心して暮らしていけるまちづくり』 『福祉のまちづくり』	1 すべての人が暮らしやすいまちづくりに向けて	(1) 暮らしの安心のための支援体制の充実 (2) 当事者同士の支え合いのための協働活動の充実 (3) 生活支援のためのセーフティネットの構築 (4) 災害発生時に備えるための受援力の強化 (5) 生活の質を高めるための多言語支援と合理的配慮 (6) 複合化した課題に対応するための多機関協働の充実
	2 すべての人を支える福祉のまちづくりに向けて	(1) アウトリーチ支援の充実のためのネットワーク強化 (2) 成年後見制度を必要とする人のための利用支援 (3) 持続可能な福祉サービスの提供のための魅力発信と人材の受け入れ
	3 笑顔と楽しさがあふれるまちづくりに向けて	(1) 地域における福祉活動を持続させるための福祉人材の育成 (2) 市施策を推進するためのサポーターの養成 (3) 福祉に関する認識を高めるための学校・企業における福祉教育の充実 (4) テーマ別での福祉活動を活発化させるための支援 (5) 地区単位での福祉活動を活発化させるための支援 (6) 小地域での福祉活動を活発化させるための支援
	4 自ら幸せを生み出すまちづくりに向けて	(1) 福祉のまちづくりへの参画を促すための意識啓発 (2) インクルーシブ社会を構築するための参加と交流のきっかけづくり (3) 住民主体の福祉のまちづくりに向けた活動の活発化 (4) 活動を支えるための福祉情報の充実
	5 安心して相談できるまちづくりに向けて	(1) 包括的相談窓口の設置・充実 (2) 身近な地域において相談ができる機会の確保・充実

第4章 地域福祉活動の具体的な取り組み

1 すべての人が暮らしやすいまちづくりに向けて

昨今、少子高齢化や独居世帯の増加などとともに、コミュニティ意識の希薄化が進み、地域から孤立したり、孤独感を覚えたりする人が増えています。こうした状況を背景に、従来の分野別の福祉制度の枠組みになじみにくい、複雑化・複合化した福祉課題が顕在化してきています。

四社協では、包括的な相談窓口を設け、関係機関につなげるための「つなぎ支援」を行っています。こうした複雑化・複合化した課題に対応すべく、新たな支援体制の構築をめざします。

さらに、コロナ禍を契機として、生活困窮にかかる相談件数、支援件数、資金貸付件数が大きく増加しました。生活困窮に陥った人がそこから抜け出し、自立した生活が送れるようになるため、息の長い支援を継続していきます。

(1) 暮らしの安心のための支援体制の充実

〈主な対象〉身寄りのない人、認知症の人、判断能力が低下した人など

みんなでめざす地域社会のすがた

ひとり暮らしの人や判断能力が低下した人、地域社会との関わりが薄い世帯などが、地域社会の中で安心して暮らすことができ、疾病等による急な生活変化にも安心して対応できる地域社会をめざします。

キーワード（活動のヒント）

社協マン

活動者A

身寄りのない人への対応について、医療関係者、介護関係者が勉強会をするなど情報を共有して協力できるところをつくっていかないと。

活動者B

サロンに来ていただくことで自然に安否確認になり、「結果的に」伴走型の支援になっているわ。

活動者C

入退院等生活に急な変化があった時、これからどうしたらよいか選択できないってつらい。自己決定できるように、日頃から余裕を持って先のことを考えておかないと。

活動者D

認知症の人と関わってきて、その人のできることや、やりたいことに目を向け、フレンドリーな関係でいることが、その人らしい安心した暮らしにつながると感じています。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の対応項目
身寄りや支援者がいない人の困りごとの相談にのります。 【現在の取り組み】 ・入院入所サポート事業 ・つなぎ支援事業	◆入院や入所の時に緊急連絡先や支援者を確保できずに医療・福祉の制度やサービスが利用できないことがあります。	➔身寄りがいない、支援者がいない人を支えるために、市が進める高齢者終活支援事業と連携した体制を構築します。	1-1-1 1-1-2
	◆退院後に入院費や家賃滞納への支援が必要等退院後生活の立て直しが難しい人の支援が必要です。	➔支援の狭間にあるケースに対し、市担当課、医療・福祉関係者と新たな支援の必要性を協議できる連絡会議を設置します。	
認知症の人やその家族の困りごとの支援をします。	◆認知症を早期に発見し、治療につなげることが難しいため、生活に支障が出てしまう人がいます。	➔認知症の人や家族に早期に関わり、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築します。また企業や地	1-1-1

【現在の取り組み】 ・認知症初期集中支援事業 ・もの忘れ相談会 ・認知症サポーター養成講座 ・認知症カフェの推進		域活動者と協働で、認知症の啓発や、認知症の人や家族の想いに寄り添うことのできる活動者の養成、居場所づくりを推進します。	
	◆認知症の支援に関する情報が家族等に十分届いていないため、家族等の不安や負担感が大きくなっています。	➔地域包括支援センター（在宅介護支援センター）と民生委員児童委員等の地域関係者が連携し認知症に関する情報提供等の取り組みを進めます。	
判断能力が不十分な人の日常生活支援をします。 【現在の取り組み】 ・日常生活自立支援事業 ・(福祉サービス)つなぎ支援	◆認知症等による判断能力の低下によって、日常生活費の支払いができずに生活に支障をきたしています。	➔成年後見サポートセンターと日常生活自立支援センターが連携することで、日常生活支援から法的な相談まで幅広い権利擁護の専門的な相談支援の体制をつくりまします。	1-1-1 1-1-2
	◆認知症等による判断能力の低下によって、福祉サービス等を選択し利用することが難しくなっています。 ◆本人の資力に合わせた福祉サービスの利用が必要とされています。	➔本人に合った制度やサービスの利用ができる意思決定ができるよう「つなぎ支援」を推進します。	
制度やサービスで対応できない課題について調査研究を進めます。 【現在の取り組み】 ・車いす等の短期貸出（介護保険制度非該当者等） ・制度やサービスの隙間を検討する関係者による「やろうに会議」	◆介護保険制度が利用できないなど、制度やサービスの隙間があります。	➔車いす等の貸出窓口や身近なところで相談にのれるよう、協働拠点施設等に福祉の相談窓口を設置します。	1-1-1
	◆入院や入所の検討時に、ペットの存在により、在宅生活を余儀なくされる状況があります。 ◆身体・認知機能の低下により、ペットの飼育ができなくなり、多頭飼育崩壊や動物虐待につながる可能性があります。	➔身体・認知機能の低下によるペットなどの飼育の課題について、関係者と連携した取り組みを進めます。	

市計画における方向性	高齢者が自分らしく安心して暮らせるよう、「認知症フレンドリー宣言」の周知と啓発を進めるとともに、「見守り等活動に関する協定」の締結や「認知症高齢者等SOSメール」の普及・登録促進を行うことなどにより、認知症の人やひとり暮らし高齢者などを地域で見守る体制の充実を図ります。 ひとり暮らしの高齢者などが犯罪や消費者被害に遭わないよう、市ホームページや広報紙などによって情報提供や啓発を行い、市民一人ひとりの防犯意識を高めるとともに、被害突発の折には消費生活相談などによって被害者に寄り添う支援に努めます。
------------	--

(2) 当事者同士の支え合いのための協働活動の充実

〈主な対象〉障害のある人、子育て中の保護者など

みんなでめざす地域社会のすがた

障害のある人、子育て中の保護者などの当事者やその支援者同士が支え合うことを通じて、誰もが地域の中で暮らし続けることができる地域社会をめざします。

キーワード（活動のヒント）

活動を通じて当事者に関わる中で、どのような姿勢でいることが大切だと感じますか？



社協マン



活動者A

当事者の人は、私たちが思っていたニーズと違うニーズを持っていることがあるから、当事者の意見を聞くことを忘れないで欲しいわ。



活動者B

おもちゃ図書館に初めて来訪し、会話が生まれないパパやママにとっては、ボランティアの存在が当事者同士の橋渡し役となるのよ。



活動者C

来訪した人たちが安心できる場所だと感じてくれることが、継続して活動できる理由だし、コロナ禍では特にその意義を感じましたよ。



活動者D

認知症カフェを通じてステップ四日市に来たことで、自分の症状をより理解し、認知症でもできることがあるのだと分かったよ。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識		市計画の 対応項目
	今後5年間の取り組み		
当事者団体、支援団体が活動に参加しやすくする仕組みをつくりま す。 【現在の取り組み】 ・ホームページや広報紙等による活動の啓発 ・総合会館の貸館事業	◆当事者団体に加入することのメリットや必要性が普及しておらず、当事者団体の加入者数が減っています。	➡当事者の居場所をつくり、同じ悩みを共有できるよう、ITやAIなどを活用し、当事者団体等につながる仕組みづくりを進めます。	1-1-3
	◆当事者団体の活動が総合会館と障害者体育館に偏っており、参加するのに交通手段などの確保が必要です。	➡当事者団体等の活動拠点について、総合会館を中心に市内の様々な場所で実施できる仕組みづくりを進めます。	
子育て支援の取り組みを促進します。 【現在の取り組み】 ・子育てサロン推進事業 ・おもちゃ図書館事業	◆子育てサロンと地域が連携した取り組みが少なく、参加者募集をする仕掛けがない状況です。	➡子育て支援活動団体が利用しやすい活動助成の仕組みとともに、地域が協力できる体制をつくりま す。	1-1-3
	◆ボランティアの高齢化が進み、活動者が減少しています。ボランティアの確保とともに、行政や専門職との連携でカバーする仕組みも求められます。	➡市と連携した子育て支援の取り組みを進めます。	

市計画における方向性	聴覚に障害がある人などの社会参加を支援するため、意思疎通支援事業の利用を促進します。 四日市市障害者大会や、四日市障害保健福祉圏域自立支援協議会によるこころの健康・福祉のフェスティバルなどの開催を通じて障害への理解をはじめとする「心のバリアフリー」を進めます。 子どもを生み育てやすい地域となるよう、四日市市子ども・子育て支援事業計画（四日市市子どもの未来応援計画を含む）に基づき、様々な機会を通じて、母子保健や子育て支援にかかる切れ目ない相談・支援体制を構築するとともに、すべての妊産婦、子育て家庭、子どもに対して、児童福祉と母子保健の一体的な相談支援体制の充実を図ります。
------------	---

(3) 生活支援のためのセーフティネットの構築

〈主な対象〉生活困窮またはそのおそれのある人など

みんなでめざす地域社会のすがた

失業や疾病、家族構成の変化等によって生活の基盤を失うおそれのある人に対するセーフティネットの構築と、生活困窮に陥った人が困窮から抜け出し、自立につながる伴走支援の仕組みづくりをめざします。

キーワード（活動のヒント）

生活困窮支援の市民活動で大事なことで何だと思いますか？

社協マン

活動者A

たくさんの人が少しずつ「おすそ分け」できるような取り組みが大事だね。

活動者B

すぐに解決できないことが多いから、時間をかけて寄り添っていくのが大切だと思うな。

活動者C

同じような活動をしている団体が力を合わせたいな。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の対応項目
生活困窮者に対する総合相談体制を強化します。 【現在の取り組み】 ・生活支援室総合相談 ・生活福祉資金	◆障害や介護、借金、失業、虐待、判断能力の低下等様々な要因があるため、関係者が連携し、課題解決する仕組みが必要です。	➔生活困窮支援機関から、個々の支援に応じた相談窓口への「つなぎ」によって、各種関係機関が連携した相談体制のネットワークを構築します。	1-1-4
生活困窮支援機関と連携した取り組みを強化します。 【現在の取り組み】 ・みえ福祉の「わ」創造事業 ・こども食堂団体との連携 ・フードバンク事業との連携	◆生活困窮支援団体が活動しやすい環境ができ、四社協がハブとなって団体と地域関係団体が連携・協働できるような仕掛けが必要です。	➔生活困窮支援団体が役割分担しながら協働事業を実施できるよう、連絡協議会を組織化します。	1-1-4
生活支援団体を支える仕組みを強化します。 【現在の取り組み】 ・フードロスマッチング事業	◆生活支援団体が企業と連携し、生活困窮者を支える仕組みはあるが、さらなる展開が必要です。	➔食品ロスをテーマにしながら生活支援活動が展開できるよう、地域、企業、NPO等の協力団体を募り、生活困窮ネットワークの組織化を図ります。	1-1-4

市計画における方向性

生活困窮者の自立に向けて、生活困窮者自立支援制度に基づく各事業を実施し、自立相談支援によるアセスメントとプラン作成のもと、住居確保給付金の支給をはじめ、家計改善支援、子どもの学習・生活支援、就労準備支援などの支援の充実を図ります。
あわせて、重層的支援体制整備事業の地域づくり事業を活用し、社会資源のネットワーク化に取り組めます。

(4) 災害発生時に備えるための受援力の強化

みんなでめざす地域社会のすがた

災害が発生した時には、災害ボランティアの受け入れがスムーズにできる、受援力が高い地域をめざします。

キーワード（活動のヒント）

災害発生時に、効果的に支援を受けるにはどうあるべきでしょう？



災害時の個別避難計画について、当事者自身がどう行動するのか専門職と一緒に考える必要がありますね。



近所の人との関わりがほとんどない中で、災害時の避難をどのように考えたらよいのだろうか？ とても不安です。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の対応項目
災害ボランティアセンターに対する地域の理解者・協力者をつくります。 【現在の取り組み】 ・災害ボランティアセンター地域アドバイザー養成研修 ・災害ボランティアセンター地域アドバイザー連絡会	◆災害ボランティアサテライトセンターが設置できるよう、各地域で設置訓練、啓発訓練が実施されることが必要です。 ◆自主防災組織、自治会等に災害ボランティアセンターアドバイザーが配置されるようにするため、啓発等が必要です。	➔災害発生時、各地域に災害ボランティアサテライトセンターが設置できるよう、自主防災組織等の地域団体、プロボノ団体、当事者組織等との情報共有を図るとともに、協働事業を進め、連携を強化します。	1-2-1
災害発生時の災害ボランティアセンター設置に向けた基盤強化を進めます。 【現在の取り組み】 ・災害ボランティアセンタースーパーバイザー研修 ・三泗鈴亀広域連携事業	◆発災時、3日以内に災害ボランティアセンターを設置できるよう、すべての社協職員がノウハウを身につける必要があります。 ◆災害ボランティアセンターが設置できるよう、マニュアル、必要備品等を最新のものに更新・整備する必要があります。	➔職員の災害ボランティアセンタースキルを向上させるとともに、社協BCPを定期的に更新することにより、「四日市市災害ボランティアセンター設置マニュアル」を実効性あるものとしていきます。	1-2-1

市計画における方向性	発災した場合に、災害ボランティアセンターを設置し、地域への支援が的確に展開できるよう、定期的な訓練の実施と、日頃からの地域との関係づくりに努めます。あわせて、災害ボランティア養成講座によってボランティアの育成を図ります。
------------	--

(5) 生活の質を高めるための多言語支援と合理的配慮

〈主な対象〉外国籍の市民、障害のある人など

みんなでめざす地域社会のすがた

外国籍の市民、障害のある人などが、言葉が伝わらないことなどによって不利益を被らず、質の高い生活が送れる地域社会をめざします。

キーワード（活動のヒント）

外国籍の市民や障害のある人などが不利益を被らず、質の高い生活を送るために大切なことは何でしょうか？



社協マン



活動者A

当事者の人は、私たちが思っていたニーズと違うニーズを持っていることがあるから、当事者の意見を聞くことを忘れないで欲しいわ。〔再掲〕



活動者B

障害のある人への支援の底上げは進んでいるけれど、逆に、一人ひとりのニーズに合った支援・配慮が必要になってきていると感じますね。



活動者C

いざという時にどの情報を信じたらよいか分からなかった経験から、困っている仲間を集めて、必要な情報を発信できるグループをつくりたいわ。



活動者D

外国人市民の中でも、まだ母語のコミュニティが形成されていない国の出身者への支援が必要だと思いますよ。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識		市計画の 対応項目
	今後5年間の取り組み		
合理的配慮に基づき、様々な福祉情報を発信します。 【現在の取り組み】 ・社協ホームページの翻訳 ・刊行物の音訳・点訳	◆市内に居住する外国人の多国籍化が進んでおり、ホームページ、刊行物、窓口対応における対応が求められます。 ◆ICTの発展により公的な情報は取得しやすくなっていますが、生活の質を高めるためには、趣味・嗜好などの個別ニーズへの対応が求められます。	➡相談窓口、ホームページなどにおいて、多言語対応の言語数を増やしていきます。 ➡合理的配慮に加え、個別ニーズに対応した情報発信の仕組みを拡大します。	1-2-3
災害発生時を想定した多言語支援を進めます。 【現在の取り組み】 ・外国人防災リーダーズ連絡会	◆災害時要配慮者となる外国人に対し、市民活動で通訳・翻訳などの情報保証ができる仕組みづくりが進むと同時に、防災意識を広げるための外国人リーダーが育ちつつあります。	➡災害発生時に多言語支援ができるよう、外国人防災リーダーを中心とした当事者支援組織を設置し、外国人の防災意識の周知を高めます。	1-2-3

市計画における方向性	様々な違いを超えて尊重し合う地域共生社会の実現に向けて、多様な生き方や考え方に関する理解を促進するため、各種講演会の開催や市広報・冊子などを活用した啓発事業を行います。 また、様々な違いを理解するための交流や親睦を深める機会を提供します。
------------	---

(6) 複合化した課題に対応するための多機関協働の充実

〈主な対象〉「8050」の世帯、ひきこもりの人など

みんなでめざす地域社会のすがた

複雑で複合的な課題を集約・共有し、社会資源の開発や事業展開につなげることによって、課題解決に向かう仕組みづくりをめざします。

キーワード（活動のヒント）

複雑で複合的な課題が増えているように感じますが、その対応や解決に向けて、支援者に求められることは何でしょうか？



社協マン



活動者A

複雑なケースは支援者の負担感も大きいのよ。抱え込まずに複数の人が見守る体制づくりが必要よね。



活動者B

サロンに来ていただくことで自然に安否確認になり、「結果的に」伴走型の支援になっているわ。〔再掲〕



活動者C

「8050 問題」などの複雑化したケースには、関係機関で専門性を発揮し、連携しながら、対応にあたることが必要なのよ。



活動者D

支援に対して本人の同意が得られず、同居家族の協力が不十分な場合は、支援につながりにくいけど、金銭管理等への介入が必要なケースもあるんですよ。



活動者E

複合的な課題を抱えた世帯のケースは、一部の支援者が動いて対処している実情があるけれど、解決に向けては関係機関で連携しながら進めるべきだね。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の 対応項目
複合的な課題の相談窓口 を充実させます。 【現在の取り組み】 ・包括的相談窓口の設置	◆ 解決が困難な福祉課題に 対し、関係機関から頼りに される相談窓口が求めら れています。	➡ どこに相談したらよいか 分からない「地域福祉課題 の相談」を受けられる相談 窓口を設置するとともに、 課題解決に向けた調査・研 究を実施します。	1-2-5
複合的な課題に対し、伴走 型支援を実施していきます。 【現在の取り組み】 ・つなぎ支援事業 ・65 会議の実施	◆ 緊急対応が必要な人、支援 者がいない人、認知症など で見守りが必要な人に対 して、関係機関が協働で見 守り、いざという時に連携 できる仕組みが必要です。	➡ 民生委員児童委員が定期 的に見守りをしている福 祉票対象者を中心に、情報 共有会議において関係機 関と情報共有しながら、地 域における見守りの実施 を支援します。	1-2-5
重層的な福祉課題を支える 仕組みを強化します。 【現在の取り組み】 ・地区地域ケア会議の参 加及び協力 ・個別地域ケア会議 ・介護支援専門員等に対 する個別支援	◆ 市が進める重層的支援体 制のネットワークを基礎 として、新たな地域福祉活 動のネットワークへと展 開していくことが望まれ ます。	➡ 市が進める重層的な相談 支援体制が円滑に構築で きるよう、地域福祉の協議 体を位置づけるとともに、 関係機関と連携した相談 窓口を設置します。	1-2-5

市計画における方向性	多様で複合的な福祉課題を持つ人やその支援者（ケアラー）も含めた世帯全体への支援を進めるため、専門機関の連携のもとで個々のケースに応じた支援に努めるとともに、必要に応じて、重層的支援体制整備事業におけるアウトリーチ等を通じた継続的支援事業などによる伴走型支援を図ります。 あわせて、地域での見守り、支え合いによって、孤独・孤立を防ぐための活動を促進します。
------------	---

2

すべての人を支える福祉のまちづくりに向けて

住み慣れた地域で安心して暮らすには、一人ひとりの尊厳が保たれ、福祉サービスを安定的に利用できる仕組みが必要です。

高齢化の進展や身寄りのない人の増加に伴い、成年後見制度や日常生活自立支援事業といった権利擁護支援の必要性が高まっています。制度の周知・啓発を行い、円滑な利用促進と虐待防止等の対策につなげる支援を行います。

四社協は、福祉サービスの提供主体であると同時に、高齢・障害の福祉サービス事業所の連絡会事務局を担うなど、福祉事業所間のネットワークの「ハブ」の役割を担っています。他機関との連携により、地域の福祉課題を共有し、見守りのネットワークを強化するなど、福祉サービスの質の向上に努めます。

また、将来にわたり福祉人材を確保するため、福祉の仕事の魅力発信や人材育成の取り組みを進めます。

(1) アウトリーチ支援の充実のためのネットワーク強化

みんなでめざす地域社会のすがた

地域組織、福祉事業所、専門職などのネットワークを「顔の見える関係」とすることで、支援の必要な人にアウトリーチできる仕組みづくりをめざします。

キーワード（活動のヒント）

アウトリーチによる支援が重要視される背景とは何でしょうか？

社協マン

活動者A

行政への相談は敷居が高く、気軽に相談に行けないという人も多いので、相談支援事業所である我々が地域へ出向くことも大事だと思っていますよ。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の対応項目
地域で支えるための見守りのネットワークを強化します。 【現在の取り組み】 ・地域ケア会議の実施 ・65 会議の実施 ・ふれあいいきいきサロン連絡会の実施	◆地域において、関係者の共通認識のもとで取り組みを実施するためには、地区単位の福祉課題を明確にする必要があります。 ◆単位自治会や隣近所でお互いを気にかけて、福祉サービスで対応できない生活課題を助け合える取り組みが求められています。	➔在宅介護支援センターを中心とした地域の福祉関係者の協議体を組織化し、福祉関係者との連携による見守りネットワークを強化します。 ➔小地域の見守りネットワークとして、ふれあいいきいきサロンのつながりを活用し、「お互い様」の支え合い活動が充実するよう支援します。	2-1-2
他機関と連携した支援のネットワークを強化します。 【現在の取り組み】 ・自立支援協議会	◆障害分野の福祉課題を明確にし、福祉関係者と地域関係者が共通認識のもと取り組みを実施できる場づくりが必要です。	➔地域福祉活動として協働の取り組みが実施できるよう、介護・障害の福祉関係者と地域福祉関係者との連携の機会を充実させます。	2-1-1 2-1-2

市計画における方向性	福祉サービスの安定的な提供と質の向上のため、研修機会の充実を図るとともに、集団指導や事業者が集まる会議などの機会を通じて、福祉事業者に向けた的確な情報提供の充実を図ります。 地域における課題や支援ニーズを把握し、その解決をめざす地区地域ケア会議を通じて、地域と福祉事業者との連携を促します。 また、福祉事業者や各種の相談機関との間で、情報やノウハウの共有ができるよう、顔の見える関係づくりの機会の確保に努めます。 福祉事業者の適切な事業運営や利用者本位のサービス提供につなげるため、指導監査に加え、制度改正への対応や苦情解決制度などにかかる相談・助言を行うとともに、研修などの機会を通じた情報提供による支援を行います。
------------	---

(2) 成年後見制度を必要とする人のための利用支援

みんなでめざす地域社会のすがた

成年後見制度によって、判断能力が低下した人、身寄りのない人などが支えられる仕組みづくりをめざします。

キーワード（活動のヒント）

成年後見制度を必要とする人に利用してもらうには、何が必要でしょうか？



孤独な人に対してはこちらから働きかけ、困っている人を早期発見できる仕組みが必要よ。社協などの相談先を知らない人も多いんじゃないかしら。



医療職・福祉職への後見人制度の周知はまだまだと感じますね。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の 対応項目
成年後見に関する相談支援（サポートセンター）機能を充実させます。 【現在の取り組み】 ・成年後見サポートセンター相談窓口の設置 ・成年後見制度出前講座 ・啓発情報紙等の発行	◆認知症者等の増加に比べ、成年後見制度の利用率は上がっておらず、制度を正しく理解し、制度が必要な方が利用できるようなサポートが必要とされています。	➡成年後見制度の円滑な利用が進むよう、申立相談から支援、後見人選任までサポートできる相談支援機関としての制度啓発とともに、相談・支援の機会を充実させます。	2-1-3
後見人等を支える仕組みを強化します。 【現在の取り組み】 ・後見相談窓口 ・親族後見人のつどい	◆福祉課題や生活課題が多様化し、後見人等の負担が大きくなっている。後見人の相談は主に裁判所が担ってきたが、多様化する相談に対応できる相談体制が求められている。	➡よりよい後見人等の活動が実施できるよう、後見人等のための相談窓口を設置し、福祉、法律、法的手続き等の専門的な相談の機会を充実させます。	2-1-3
後見人等を確保する仕組みを強化します。 【現在の取り組み】 ・法人後見受任 ・三士会等（弁護士・司法書士・社会福祉士・その他）の受任体制支援 ・市民後見サポーター養成講座	◆身寄りがなく判断能力が低下する対象者は今後も増加することが考えられます。被後見人にとってよりよい成年後見人が選任されるように一定数の受任者を養成、育成していくことが求められます。	➡後見人等の担い手が確保されるよう、親族以外で専門職、法人、市民後見人といった受任者を確保・育成するとともに、後見人が活動しやすい環境を整備します。	2-1-3

市計画における方向性	成年後見制度の周知・啓発を行うとともに、制度利用を必要とする人の、円滑な利用への支援を行います。 また、制度利用を必要とする人を支えるため、中核機関を中心とした、専門職団体や家庭裁判所との連携による支援体制を強化していきます。 あわせて、成年後見サポートセンターの専門員の業務を補助するサポーターの養成を進めます。
------------	---

(3) 持続可能な福祉サービスの提供のための魅力発信と人材の受け入れ

みんなでめざす地域社会のすがた

将来にわたって持続可能な福祉サービスの提供がなされるよう、福祉人材の育成・確保をめざします。

キーワード（活動のヒント）

福祉活動（ボランティア活動）を始めたきっかけは何ですか？

活動者A

●●さんのために何かできないかなあという思いが原動力かな。

活動者B

福祉の仕事って「ありがとう」って言ってもらえてお金がもらえる仕事だね。

活動者C

「やりがい」を感じられることが大切なんだ。

活動者D

ポッチャをしている▲▲さんとの出会いが、ボランティアのきっかけなんだ。

社協マン

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の対応項目
将来にわたり福祉人材を確保するための取り組みを進めます。 【現在の取り組み】 ・ソーシャルワーカー実習指導 ・ボランティアの養成講座 ・福祉教育推進事業（福祉の仕事の出前講座）	◆福祉の専門職、介護職に就きたいという人材は不足している傾向があることから、福祉人材に関わるきっかけをつくることが求められます。	➡福祉の仕事をめざす学生等に対して実習や体験の機会を提供するとともに、研修会やイベント等の機会を活用し、福祉意識の周知・啓発を図ります。	2-2-2
	◆小・中学校等で実施されている職業体験のテーマとして福祉の仕事が取り入れられるよう、教育機関に働きかける必要があります。	➡ホームページや福祉の仕事に関する出前講座、職業体験などの機会を通じ、福祉の仕事の魅力を発信する機会を充実させます。	

市計画における方向性	持続的な人材確保に向けて、様々な機会をとらえて、福祉分野の仕事の魅力を子どもたちに発信するとともに、福祉事業者に対し、職場体験や実習生の積極的な受け入れを呼びかけます。
------------	--

3

笑顔と楽しみがあふれるまちづくりに向けて

四日市市では、地区（市民センターの管轄範囲）における福祉活動や、自治会・ご近所といった小地域における福祉活動等、様々な単位で住民による主体的な福祉活動が展開されています。

小地域のサロン活動や、「こども食堂」といった特定の課題やテーマに特化した福祉活動等、身近な地域での居場所づくりは、気軽に参加できる場として社会的孤立の防止につながります。

それらの活動は、生きがいや楽しみづくり・仲間づくり・情報交換・見守り・役割づくり等の副次的な効果をもたらし、まさに「支える側」「支えられる側」といった垣根を越えた支え合い活動と言えます。

しかしながら、昨今の自治会加入率の低下や福祉団体への加入数の低下による担い手の減少や固定化は、地域における福祉活動継続の大きな課題となっています。

四社協では、地域・学校・企業等における福祉教育の推進により、住民の福祉意識の醸成を図りつつ、活動のきっかけづくりと新たな活動者層との連携を強化していきます。また、住民自らが参加する支え合い活動を推進する上で、大きな役割を担っている民生委員児童委員・地区社会福祉協議会・当事者団体の運営や活動に対し、継続的に支援を行い「地域の福祉力」の向上を図っていきます。

(1) 地域における福祉活動を持続させるための福祉人材の育成 _____

みんなでめざす地域社会のすがた

地区社協、福祉協力員、民生委員児童委員などの福祉人材や、学生や企業など様々な層のボランティアなど、地域活動、介護予防活動の担い手として、福祉について考え、行動していける「福市民」が育つ地域社会をめざします。

キーワード（活動のヒント）



福祉活動にたくさんの人を巻き込むために必要なことって何でしょう？

活動者A

子どもたちに参加してもらおうと、保護者も興味を持ってくれるんだよね。

活動者B

子どもが大きくなった時に、あの地域イベントに自分の子どもを参加させたいなあって思えるような企画が欲しいな。

活動者C

40代が楽しめるイベントは40代にしか分からないよね。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識		市計画の 対応項目
	今後5年間の取り組み		
地域における福祉活動を 持続させるための福祉人 材を養成します。 【現在の取り組み】 ・四日市福祉教育大学 ・四社協福祉ゼミナール ・社会福祉大会 ・ボランティア活動保険 加入補助 ・ボランティア通信の発 行 ・地区社協や民生委員、 老人クラブ、母子寡婦 の団体支援、地域福祉 団体の組織化 ・四日市福祉教育大学 ・専門ゼミナール	◆地域福祉活動の担い手と 地域のリーダーが不足し ていると言われており、地 域福祉の活動者を増やし ていくことが求められて います。	➡福祉活動を実践するきつ かけとなるよう、活動につ いての情報発信と学びの 機会を充実させます。	3-1-1 3-2-1
	◆福祉団体の組織率、加入数 などが減っており、福祉団 体の存在意義が問われる 中、福祉団体の役割と今後 の指針、社協の事務局支援 としてのあり方を見定め る必要があります。	➡福祉団体や地域福祉組織 の活動指針及び発展計画 の作成を通じて、担い手養 成と持続可能な組織体制 づくりの強化につなげま す。	3-2-1
	◆新たな福祉課題に対応し ていくために、新しい制度 やサービスなどの仕組み ができていく中で、地域や ボランティアに求められる 役割も変化しており、そ れに応じて地域福祉の活 動者等を養成していく必 要性があります。	➡多様化する福祉課題に対 して、地域福祉活動や市民 活動の役割を整理し、その 役割のために必要な福祉 人材を養成します。	3-1-1

市計画におけ る方向性	地域活動や介護予防活動の担い手を育成するため、認知症サポーター養成講座やヘルスリーダー養成講座などを継続して実施します。また、「防災」を切り口として、福祉課題を持つ人とつながりを構築する災害ボランティア地域アドバイザーの養成を継続します。 あわせて、地域における福祉活動の中心的存在となるリーダーや福祉協力員の育成に向けて、地域福祉ゼミナールや地域づくりマイスター養成講座などを開催するとともに、地区社会福祉協議会のリーダーを育成する研修などを継続します。
----------------	--

(2) 市施策を推進するためのサポーターの養成

みんなでめざす地域社会のすがた

認知症サポーター、成年後見サポーターなどといった市民サポーターを養成し、市施策の推進による地域福祉のまちづくりをめざします。

キーワード（活動のヒント）

さらに認知症サポーター養成等を進めるのに必要なことは何でしょう？



社協マン



活動者A

まだまだ認知症に対する認識が低いと感じる。地域や学校等で講座を実施し、理解を広げたいですね。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の対応項目
市委託事業における福祉人材の養成を図ります。 【現在の取り組み】 ・認知症サポーター養成講座 ・市民後見サポーター養成講座 ・災害ボランティア地域アドバイザー養成講座	◆ 地域福祉活動を展開していくため、市制度に合わせた福祉マンパワーを確保する必要があります。	➡ 福祉施策に合わせた福祉マンパワーの養成を進め、その活躍のための場づくりを行います。	3-1-1

市計画における方向性

地域活動や介護予防活動の担い手を育成するため、認知症サポーター養成講座やヘルスリーダー養成講座などを継続して実施します。また、「防災」を切り口として、福祉課題を持つ人とつながりを構築する災害ボランティア地域アドバイザーの養成を継続します。

(3) 福祉に関する認識を高めるための学校・企業における福祉教育の充実

みんなでめざす地域社会のすがた

市内の学校や地域、企業における福祉に関する学びの機会をつくり、市民が福祉活動に参加するまちをめざします。

キーワード（活動のヒント）

福祉を学び、市民が参加するよう取り組みのヒントを教えてください。



社協マン



活動者 A

日々利用する身近な店舗が拠点となり、お客様の困りごとと解決のバックアップ（窓口をつくり、行政につなぐ等の橋渡し役）ができれば福祉専門職や行政と連携し、講演会や啓発を実施しているんですよ。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識		市計画の 対応項目
	今後5年間の取り組み		
学校・企業における福祉教育を充実させます。 【現在の取り組み】 ・四日市福祉教育大学 ・四社協福祉ゼミナール ・はじめてのボランティア説明会 ・サマーチャレンジ ・福祉教育推進事業	◆地域福祉活動やボランティア活動を増やしていくためには、ボランティア活動や地域福祉活動をやってみようという「きっかけ」と活動につながる「仕掛け」が必要です。	➔活動の「きっかけ」と活動につながる「仕掛け」として、講座の充実を図り、コーディネートを増やします。	3-1-2
	◆福祉や障害への理解を深め、地域福祉活動に参加してもらうためには、学生に福祉やボランティアについて興味を持ってもらうことが必要です。	➔学生に対して、福祉やボランティアへの理解を深めてもらうだけでなく、市民活動やボランティアの必要性を周知していきます。	

市計画における方向性	認知症の人などの福祉課題を持つ人への正しい理解を推進するため、学校や企業などと連携して福祉教育を推進します。
------------	--

(4) テーマ別での福祉活動を活発化させるための支援

みんなでめざす地域社会のすがた

特定の課題やテーマに特化した福祉活動を支援し、新たな活動者層とのつながりを強化します。

キーワード（活動のヒント）

意欲を持って福祉活動に取り組み、なおかつ継続して活動していくための秘訣を教えてください。



社協マン

活動者A

活動を続ける上で、決まった活動場所があるのは大切なことよ。

活動者B

誰しにも共通する「食」をテーマにすることで、属性を超えたつながりや、他の生活上の課題について考えるきっかけとなるのだと思うわ。

活動者C

さをり織りは「自分らしさ」を出しやすいツールなので、よく売れるし、売れるとやる気が出る。収入・活動資金も確保できる。好循環につながるわね。

活動者D

私たちの活動はしがらみもないし、「好き」をテーマに集っている仲間だから続けられるのよ。

活動者E

認知症カフェを通じてステップ四日市に来たことで、自分の症状をより理解し、認知症でもできることがあるのだと分かったよ。〔再掲〕

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の対応項目
テーマ別での福祉活動を活発化させるための支援を行います。 【現在の取り組み】 ・富田・下野拠点事業 ・ふれあいいきいきサロン単一メニューサロン ・社協職員出前講座	◆地域の関係が希薄化する中で、活動の目的を同じくする、趣味や嗜好が合う仲間との交流を求める声があり、つながりと助け合いの新しい形として期待されています。	➡空き家や公共スペース、福祉施設に地域福祉活動の拠点をつくることで、テーマ型の福祉活動を活発化させます。	3-2-1
	◆企業、商店、NPOなどにも参加しないと地域福祉活動が維持できない現状があり、持続可能な社会の構成員であることを理解してもらう必要があります。	➡企業や商店、NPOなどに対し、持続可能な地域をつくっていく必要性を周知しつつ、地域福祉活動に参加しやすい関係づくりを進めます。	

市計画における方向性

安心して活動を展開していけるように、市民活動総合保険やボランティア活動保険などを紹介するとともに、「地域団体への助成制度のしおり」を活用して、助成制度を周知します。また、地域団体間の連携強化を推進する仕組みづくりを検討します。

(5) 地区単位での福祉活動を活発化させるための支援

みんなでめざす地域社会のすがた

地区を単位とした地域福祉活動の中心的存在である地区社会福祉協議会の活動の活発化を図り、地区レベルでの支え合いや交流などの活動が活発な地域をめざします。

キーワード（活動のヒント）



社協マン

地区レベルで、住民同士が支え合ったり、交流したりする時に、何が大切でしょうか？



活動者A

みんなで楽しめるイベントもよいけれど、それよりも日常的なつながりができるように、継続的な居場所づくりができればと考えているんですよ。



活動者B

私たちの強みは、銀行へ付き添ったりして、制度やサービス以外の部分で、柔軟な取り組みができることじゃないかしら。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の対応項目
地区単位での福祉活動の活発化に向けた支援を行います。 【現在の取り組み】 ・地区社協運営費助成 ・地区社協メニュー事業	◆ 地区レベルの福祉活動をどのように進めていくかを考えるため、各地区における地域福祉団体が集まり、その組織を機能させていく必要があります。	➡ 地区の福祉活動を推進する地区社会福祉協議会の役割が明確化され、組織強化されるよう、支援を行います。	3-2-1

市計画における方向性	安心して活動を展開していけるように、市民活動総合保険やボランティア活動保険などを紹介するとともに、「地域団体への助成制度のしおり」を活用して、助成制度を周知します。また、地域団体間の連携強化を推進する仕組みづくりを検討します。
------------	---

(6) 小地域での福祉活動を活発化させるための支援

みんなでめざす地域社会のすがた

サロン等の集いの場や介護予防活動などとともに、祭りやマルシェの開催など住民が主体となった小地域での福祉活動・交流活動を通じて、近隣レベルでの見守りや支え合いがある地域をめざします。

キーワード（活動のヒント）

住民が主体となった小地域での活動を続けていく上で、大切なことは何でしょうか？



こども食堂等、子どもが主役の活動をすることで、賛同する人が増え、結果的に多くの大人が動くことにつながるんですよ。



「自分たちのため」と思い活動を続けてきました。交流を続けることで顔見知りになり、自然と気になかけ合える関係になっていますよ。



自分たちが楽しいと思い、参加する人それぞれがやれることをやって、自然と役割を持って参加することが長続きの秘訣ね。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識		市計画の 対応項目
	今後5年間の取り組み		
小地域での福祉活動を活 発化させるための支援を 行います。 【現在の取り組み】 ・ふれあいいきいきサロ ン推進事業 ・子育てサロン推進事業	◆地域の中の関係の希薄化 が進む中、相互扶助の関 係を継続できるような取 組みが求められます。	➡地域の誰もが参加できる サロン活動を充実させ、居 場所づくりを進めるとと もに、介護予防活動や地域 の助け合いの輪を広げら れるよう、活動に対する支 援を行います。	3-2-1 3-2-2

市計画にお ける方向性	地域活動が積極的に展開されるよう、地域活動の推進を支援するふれあいいきいきサロン推進員を配置し、「ふれあいいきいきサロン」をはじめとする高齢者の通いの場や、子ども食堂などの地域における子どもの居場所づくりを推進します。
----------------	---

4

自ら幸せを生み出すまちづくりに向けて

地域福祉活動を充実させ、より一層推進していくためには「人」の力が重要です。一人でも多くの人に、四日市市のボランティア活動や福祉活動について知ってもらい、活動への参加を促すことができるよう、多様な媒体を活用した福祉情報の発信を行います。

また、職員自らも発信源となり「人と人」「人と活動」をつなぎ、活動者が自分のできることを通じて地域福祉活動に参加できる環境づくりに取り組んでいきます。

地域福祉活動は、直接的に活動に参加するものばかりではありません。例えば、寄付や募金による活動支援や、イベント会場の提供も、社会貢献活動の一つの形であり、このまちの誰かを支える力となります。このような、多様な参加の形がかなうよう、活動の機会づくりを進めます。

個人・団体・企業・行政のそれぞれが、持てる力を提供し合い、ともに活動する「協働の取り組み」は、地域福祉活動の新たな活路であると考えます。

四社協が継続して取り組んでいるユニバーサルスポーツの取り組みは、その代表例です。競技者・サポートスタッフ・企業ボランティアといった、障害の有無や性別・年齢の異なるすべての人が、違いを認め合い、対等にスポーツを楽しむ活動を促し、多様な主体を内包する「福祉のまちづくり」の理念を体現していきます。

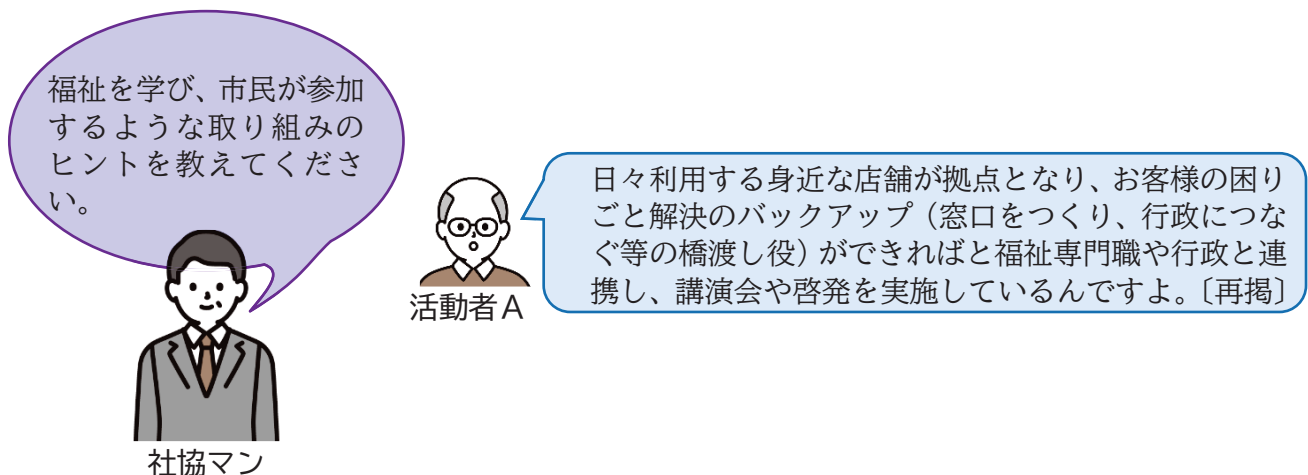


(1) 福祉のまちづくりへの参画を促すための意識啓発

みんなでめざす地域社会のすがた

実践的な活動のみならず、寄付が福祉につながるといった、多様な社会貢献の形があることについての理解を広げ、多くの市民が参加する福祉のまちをめざします。

キーワード（活動のヒント）



地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の対応項目
福祉事業に対する企業等の協力を呼びかけます。 【現在の取り組み】 ・企業出前講座 ・企業による福祉イベント ・地域貢献活動のコーディネート	◆ 企業や社会福祉法人が持つ社会資源を生かした社会貢献活動が積極的に行われ、企業等にとっても地域にとっても「WIN&WIN」の関係が構築される仕組みが必要です。	➡ 社会福祉法人や企業の「強み」を生かした地域貢献活動への参画を促し、地域福祉活動と連携した取り組みを広げます。	4-1-4 4-2-1
多様な社会貢献の形として寄付文化の醸成を図ります。 【現在の取り組み】 ・赤い羽根共同募金活動	◆ 共同募金運動において企業からの協力は欠かせません。今以上に、企業に対し募金の主旨を理解し、協力をしていただけるよう働きかけていく必要があります。	➡ 法人募金のほか、四日市オリジナルのバッジ募金等の新たな啓発を行い、募金運動が企業のイメージアップとなることが理解される取り組みをめざします。	—

市計画における方向性	市民一人ひとりが身近な地域に対する意識を高めるために、自治会、老人クラブをはじめとする地域活動に関わる活動への参加を促します。 協働による地域づくりに向けて、市民協働まつりを開催するなど、市民協働に対する意識を高めます。
------------	---

(2) インクルーシブ社会を構築するための参加と交流のきっかけづくり

みんなでめざす地域社会のすがた

ユニバーサルスポーツの普及などのきっかけづくりを進めることにより、年齢、性別、障害の有無に関係なく参加、交流できる環境と、地域における支え合いの仕組みづくりをめざします。

キーワード（活動のヒント）



活動者A

みんなで一緒に過ごすことで互いを知り、外国人などへの偏見を取っ払えるんじゃないかしら。

活動者B

おもちゃ図書館に初めて来訪し、会話が生まれないパパやママにとっては、ボランティアの存在が当事者同士の橋渡し役となるのよ。〔再掲〕

活動者C

来訪した人たちが安心できる場所だと感じてくれることが、継続して活動できる理由だし、コロナ禍では特にその意義を感じましたよ。〔再掲〕

活動者D

障害のあるなしに関わらず誰でも来たい時に参加できるから、自然な形で障害の理解につながるのよ。

活動者E

スタッフも楽しめることが活動継続の秘訣ですよ。

活動者F

障害だけを見るんじゃなく、ちょっとしたことで関わりを持てるきっかけがあると、自然にコミュニケーションできるんじゃないかな。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識		市計画の 対応項目
	今後5年間の取り組み		
参加と交流のきっかけと なる取り組みを進めます。 【現在の取り組み】 ・ポッチャ交流大会 ・共栄の織り展示会 ・たんぽぽマルシェ ・あさけワークス夏祭り ・おもちゃ図書館事業	◆SDGs やユニバーサルデザ イン、バリアフリーなど多 様性についての啓発と周 知を進め、持続可能な社会 づくりをめざす必要があり ます。	➡誰もが参加しやすいユニ バーサルスポーツをはじ め、様々な社会参加や交流 の機会をつくり、インクル ーシブな意識を醸成して いきます。	4-1-2 3-1-2

市計画における方向性	様々なかたちの社会参加を通じて、自らの生きがいづくりと地域福祉への貢献に寄与できるよう、四日市市シルバー人材センターなどの活動を引き続き支援します。 また、市民同士の交流と参加の機会を拡充するため、ユニバーサルスポーツなどの普及を図ります。
------------	---

(3) 住民主体の福祉のまちづくりに向けた活動の活発化

みんなでめざす地域社会のすがた

話し合いの場づくりを進めるとともに、身近な地域で支え合う素地をつくり、住民が主体となった助け合い活動を活発化することで、ともに福祉課題を考え、共有し、ともに取り組みが進められるような地域社会をめざします。

キーワード（活動のヒント）

住民同士がともに考え、
ともに取り組んでいく
ためのヒントを教えてください。



活動者A

いま求められていることを実施することで、喜ばれ、
人が集まりやすくなると思うね。



社協マン



活動者B

私たちの強みは、銀行へ付き添ったりして、制度やサ
ービス以外の部分で、柔軟な取り組みができることじ
ゃないかしら。〔再掲〕

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識		市計画の 対応項目
	今後5年間の取り組み		
住民主体の福祉のまちづくりにつながる活動への支援を行います。 【現在の取り組み】 ・生活支援コーディネーター事業 ・住民主体サービス支援事業	◆地域福祉の担い手と地域のリーダーが継続して地域福祉活動を実践できるようにするためには、福祉の情報が提供されるとともに、やりがいを持ち、不安が払拭されることが必要です。	➡地区単位の福祉課題に対して、地区の住民が連携し、主体的に課題解決に取り組めるよう、支援の仕組みをつくりまします。	4-1-4 3-1-2

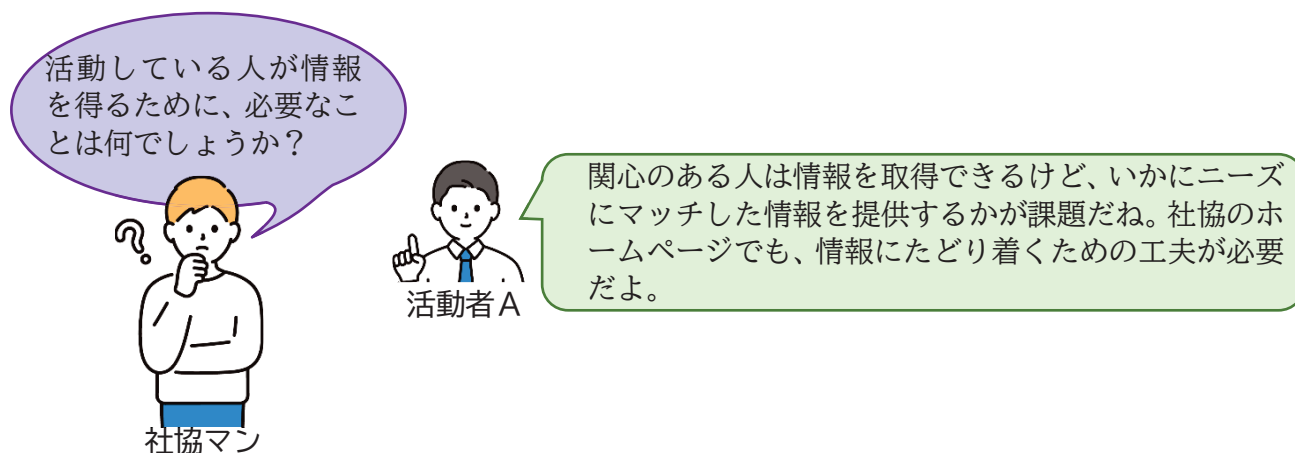
市計画における方向性	市民主体の支え合いによる地域づくりに向けて、生活支援コーディネーターなどによる住民主体サービスの活動支援や新規立ち上げ支援を進めます。 自らの地域を自ら支え、共生する地域づくりに向けて市民の福祉意識を高めるため、「福祉教育大学」を開講し、福祉について考え、行動していける「福市民」への登録を促進し、意見交換の機会を設けます。
------------	---

(4) 活動を支えるための福祉情報の充実

みんなでめざす地域社会のすがた

ボランティアや各種の支援活動などの情報が充実し、様々な福祉活動が円滑に、かつ連携のもとで進められる地域社会をめざします。

キーワード（活動のヒント）



地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の対応項目
福祉活動に関する情報の充実化を図ります。 【現在の取り組み】 ・ホームページ ・広報紙「かけはし」「ボランティアニュース」	◆ 必要な人に必要な情報を届ける仕組みと、福祉への理解と意識向上という2つの考え方で、市民の福祉意識の向上を図ることが求められます。	➡ ホームページやSNS、広報紙、出前講座などによって、福祉意識の向上を図ると同時に、地域福祉活動に必要な情報をタイミングと方法を踏まえて周知できるようにします。	4-2-2

市計画における方向性	市民が地域活動に関心を持ち、参加へのきっかけとなるような活動の情報を把握し、社協なるほど出前講座などの機会を利用して、実践活動などの情報提供を行うことで活動を推進します。 また、地域活動や地域で展開している福祉・生活支援のサービス、ボランティアなどの社会資源の幅広い情報を、広報紙などの各種メディアを通じて発信します。 地域活動の活発化に向けて、地域団体などを支援するため、生活支援コーディネーターやボランティアコーディネーターなどが、市内各地域での活動事例やボランティアに関する情報を収集し、市社会福祉協議会ホームページで掲載しています。その他、広報紙などの様々な媒体を通じて発信します。
------------	--

5

安心して相談できるまちづくりに向けて

暮らしている地域の身近な場所に、福祉的な相談を受け止める窓口があることは、社会的孤立を防ぎ、日常の安心につながります。

多様な課題や複合的な問題に広く対応するため、福祉の専門機関はもとより、民生委員児童委員・当事者団体とも連携しながら、どのような相談でもまずは聞いてくれる「断らない相談窓口」の体制整備に取り組めます。



(1) 包括的相談窓口の設置・充実

みんなでめざす地域社会のすがた

誰もが安心して相談でき、受け付けた相談内容に対する適切な対応を図れる体制づくりをめざします。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の 対応項目
包括的相談窓口の設置・充 実を図ります。 【現在の取り組み】 ・ 包括的な相談窓口 ・ 相談機関連絡会議	◆ 多様化する福祉課題に対 して、分野にとらわれず 「断らない相談窓口」と連 携した取り組みによる支 援が求められています。	➡ コミュニティソーシャル ワーカーを複数の部署に 設置し、地域の協議体と連 携することによって、相談 から解決に至るまでの支 援ができる体制をつくり ます。	5-1-1

市計画におけ る方向性	誰もが安心して相談できるよう、分野を問わず、あらゆる相談を受け入れる「断らない相談窓口」（包括的福祉相談窓口）の体制整備を進めます。 受け入れた相談に対する的確な対応を図るべく、在宅介護支援センター、地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、子育て支援センターなどを重層的なつながりで、相互の連携強化を図るとともに、相談ケースの情報を共有することを通じて、全体的な対応能力の向上を図ります。
----------------	--

(2) 身近な地域において相談ができる機会の確保・充実 _____

みんなでめざす地域社会のすがた

市民に身近な相談役である民生委員児童委員との連携により、身近な地域における安心できる相談体制づくりをめざします。

地域や活動団体などの福祉活動を支える四社協の事業

取り組みの方向と 現在の取り組み	現状分析・課題認識	今後5年間の取り組み	市計画の 対応項目
身近な地域において相談ができる機会の確保・充実を図ります。 【現在の取り組み】 ・民生委員児童委員事務局 ・つなぎ支援	◆市民にとっての身近な相談相手である民生委員児童委員については、担い手不足の解消に向けて、その負担を軽減させることが必要です。	➡地域の身近な相談窓口である民生委員児童委員と連携した取り組みにより、地域の様々な声を拾い上げ、専門機関につなぐ仕組みをつくりまします。	5-1-2
市計画における方向性	身近な地域においても、安心して相談できるよう、民生委員・児童委員をはじめとする相談体制の充実を図るとともに、その重要性や役割に関して市民への周知・啓発を進めます。		

第5章 各地区における地域福祉活動の取り組みについて

1. 地域福祉カルテについて

地区の活動を効果的に推進していくためには、まず自分たちの地区の特徴や現状を理解することが必要です。このカルテは28地区の地区社会福祉協議会の会長から「地区の活動」や「将来への思い」、「日頃感じていること」について、四社協の職員が聞き取りをして作成したものです。また、他地区のカルテを見ることで、他地区の取り組みを参考にして活用いただけるように作成しています。

このカルテをもとに、福祉懇談会などの機会で話し合いを行い、「これからの地区の活動」を考えていきましょう！

●地域福祉カルテの活用イメージ

①～④の順番にやってみよう！

あなたのまちで地区社協が誕生！
地区の福祉活動がはじまった

スタート

地域福祉カルテが完成！

①知ろう
自分のまちって
どんなまち！！

「あなたが住みたいまちはどんなまち？」
こんなまちだったらいいなあ
②みんなに伝えよう！

②

①

「あ、その活動やってみたい！
でも一人では難しいかも・・・」
③仲間づくりをしませんか！

③

「仲間がいれば百人力！」
小さなことからOK
④何かできそうなことを書き出そう！

④

ゴール

理想のまちに近づけたかな？
頑張った自分に拍手！！！！

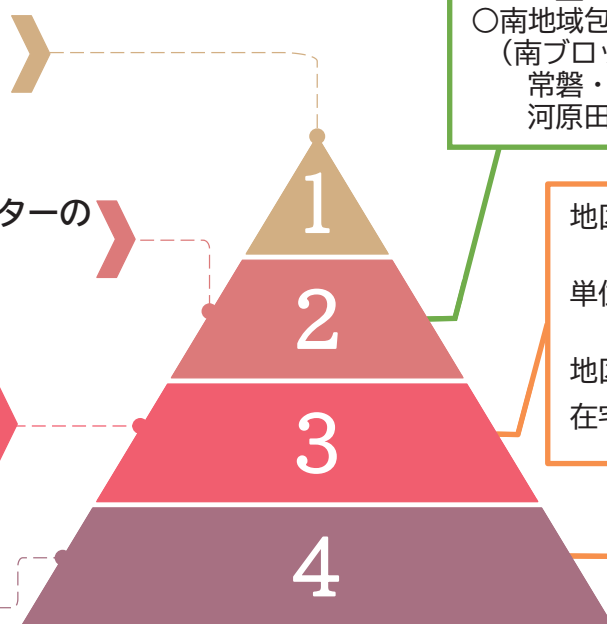
「地域」の考え方

1層：市全域

2層：
地域包括支援センターの
管轄エリア

3層：
地区社協や地区
市民センター

4層：
単位自治会
隣近所

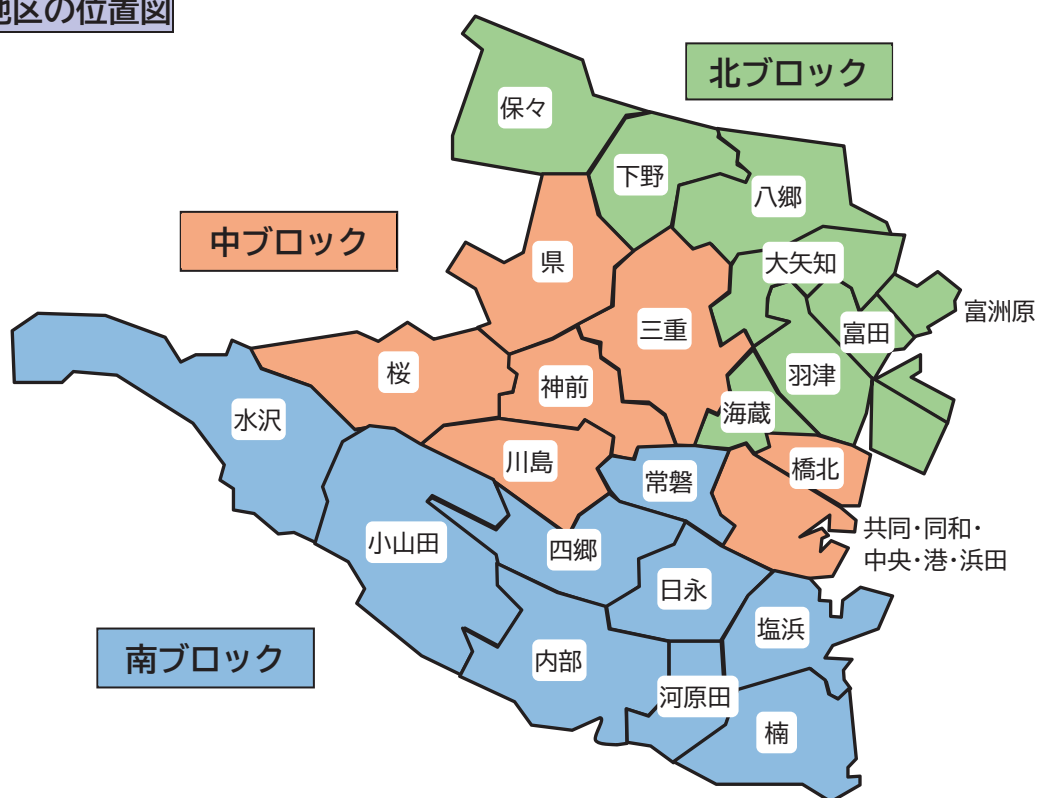


3つの地域包括支援センター
 ○北地域包括支援センター担当地区
 (北ブロック)
 富洲原・富田・羽津・海蔵・
 大矢知・八郷・下野・保々
 ○中地域包括支援センター担当地区
 (中ブロック)
 橋北・共同・同和・中央・港・浜田・
 三重・県・桜・川島・神前
 ○南地域包括支援センター担当地区
 (南ブロック)
 常磐・塩浜・日永・四郷・楠・
 河原田・内部・小山田・水沢

地区社会福祉協議会
 : 28 地区 (支部を含む=33)
 単位民生委員児童委員連絡会
 : 26 地区
 地区市民センター : 24 か所
 在宅介護支援センター : 26 か所

単位自治会
 : 約 750 自治会
 ふれあいいきいきサロン
 : 約 650 サロン

市内 28 地区の位置図



2. 各地区の地域福祉カルテ

北ブロック

富洲原地区

○地区の状況

人口	8,265 人	世帯数	3,042 世帯	子ども会数	（四子連）	22 団体
0～14 歳	798 人 9.6%	うち 独居高齢	715 世帯	・会員数	加入	671 人
15～64 歳	4,971 人 60.1%	うち 高齢夫婦	480 世帯	ふれあい	単一メニュー	8
65 歳以上	2,496 人 30.1%	自治会数	53	いきいき	カフェ	1
		民生委員定数	21	サロン	イベント	0
		老人会数	8 団体	身体障害者手帳数		312 人
		・会員数	494 人	療育手帳数		60 人



○富洲原地区社会福祉協議会について

地区社協や自治会の任期は2年となっています。地域のために何をするべきかという使命感をみなさんにもってもらうためにはどうすればよいか考えています。

藤田信男会長

○おすすめの地域福祉活動

敬老会では、川越高校や白子高校の吹奏楽部に演奏してもらっています。皆さんとても嬉しそうな顔をしています。一方でコロナ禍以降各イベントの参加人数が思わしくない所があり、参加者を増やす案を考えています。

○どんなまちづくりを心掛けているか

どんな活動でも一度止めると再開は難しいと思います。時代に合わせて形を変えながら続けていくことが大事だと思います。働いている世代の方にも声掛けをしています。活動に参加してもらうのは難しいですね。やりたいことをやれる人が無理なく進めていってもらうことが大事かなと思います。

○まちづくりのキーワードは

時代の変化に合わせてまちづくりを進めていくことです。

富田地区

○地区の状況

人口	12,425 人	世帯数	5,316 世帯	子ども会数	（四子連）	4 団体
0～14 歳	1,528 人 12.2%	うち 独居高齢	907 世帯	・会員数	加入	277 人
15～64 歳	7,928 人 63.8%	うち 高齢夫婦	557 世帯	ふれあい	単一メニュー	21
65 歳以上	2,969 人 23.8%	自治会数	55	いきいき	カフェ	2
		民生委員定数	25	サロン	イベント	5
		老人会数	8 団体	身体障害者手帳数		367 人
		・会員数	445 人	療育手帳数		111 人



○富田地区はどんな地区？

東富田を中心に縁台で将棋や井戸端会議が開かれ、地域のつながりが自然とできていましたが、転入者の方が増え、近所の縁が薄くなってきていると感じています。また、市の花火大会会場が富田地区から移動し、残念です。

金森渉会長

○おすすめの地区社協活動

ひとり暮らしの高齢者を対象にお楽しみ会をしています。以前は市民センターで年2回開催していましたが、参加者から会場が遠い、階段がづらいとの意見がありました。そこで、令和6年度から地区内6つの公会所での分散開催としました。その結果、参加者が80名から160名へと倍増しました。地域の方の声を聞いて工夫したことで、参加者に喜んでもらい最高です！

○どんなまちづくりを心がけているか

地区には多くの行事がありますが、開催することを目的にするのではなく、参加する人たちに喜んでもらうにはどうしたらよいかを考えることが大切だと思います。場合によってはスリム化も1つだと考えています。

○まちづくりのキーワードは

誰のためのイベントなのか、地域の人に喜んでもらえる内容なのかを基本に考えています。

羽津地区

○地区の状況

人口	17,969 人	世帯数	8,213 世帯	子ども会数	〔四子連〕	22 団体
0～14 歳	2,376 人 13.2%	うち 独居高齢	1,003 世帯	・会員数	加入	1,595 人
15～64 歳	11,834 人 65.8%	うち 高齢夫婦	693 世帯	ふれあい	単一メニュー	8
65 歳以上	3,759 人 20.9%	自治会数	28	いきいき	カフェ	4
		民生委員定数	27	サロン	イベント	3
		老人会数	なし	身体障害者手帳数		420 人
		・会員数		療育手帳数		168 人



○会長から見て羽津地区はどんな地区？

山、海、川があり自然に恵まれていますし、産業も盛んで交通の便もよく住みやすいまちだとも思います。志氏神社では祭りや能楽、よんてつ（四日市徹夜踊り）が実施されていて盛り上がっていますね。あと、額突山の市民緑地は元々土地が荒れていましたが、地区の皆で展望台を整備したり、竹あかりイベントを実施しています。

○おすすめの地区社協活動

さんきゅう食堂（高齢者食堂）や&you（こども食堂）など食を通じた集まりの場を実施しています。貧困家庭に限定せず、毎回 100 人を超える子どもたちに参加してもらっています。運営には高校生のボランティアも多数参加していて、地域の方の居場所の一つになっていると思います。

○どんなまちづくりを心がけているか

顔の見える関係を大切にして、赤ちゃんから高齢者まで、楽しく住めるまちづくりをめざしています。また、話し合いをすることを大切にしています。地区社協の委員の皆さんがまちづくりを主体的に考えられるように、委員それぞれが考え発言できる環境がよいまちになっていくと意識しています。

○まちづくりのキーワードは

みんなでアイデアを出しあって、対話でつくるまちづくりをしたいです。

海蔵地区

○地区の状況

人口	13,222 人	世帯数	5,693 世帯	子ども会数	〔四子連〕	12 団体
0～14 歳	1,579 人 11.9%	うち 独居高齢	836 世帯	・会員数	加入	466 人
15～64 歳	8,561 人 64.7%	うち 高齢夫婦	588 世帯	ふれあい	単一メニュー	19
65 歳以上	3,082 人 23.3%	自治会数	19	いきいき	カフェ	2
		民生委員定数	24	サロン	イベント	0
		老人会数	4 団体	身体障害者手帳数		375 人
		・会員数	146 人	療育手帳数		93 人



○会長から見て海蔵地区ってどんな地区？

近鉄名古屋線の駅が 2 つ、スーパーもたくさんあり、生活にも通勤にも便利な地区です。万古焼などの伝統工芸品も有名で、海蔵川の桜まつりなどの地域をあげてまちづくり活動をしています。

○おすすめの地区社協の活動

毎年行っている歩こう会には 200 名以上の方が参加しています。高齢の方から子ども連れの親子まで家族と一緒に参加できるイベントとして定着してきました。まちづくり協議会で実施している桜まつりもそうですが、定着して幅広い世代の方に参加していただけることが嬉しいです。

○どんなまちづくりを心がけているか

小地域（歩いていけるエリア）を範囲とした活動が大事だと思います。ふれあいいきいきサロンや子育てサロンのように単位自治会のつながりを深める活動が広がっていけばよいと思います。また、地域で活動している方の声を聞くと地区社協で取り組まないといけないことが分かるのではと考えています。自由に意見を言い合い、みんなで海蔵のまちをどうしていきたいか考えたいですね。福祉懇談会のような各種団体が集まって意見を出せる環境をつくっていききたいと考えています。

○まちづくりのキーワードは

意見を出し合い、新しい風をいれたいですね。

大矢知地区

○地区の状況

人口	21,519 人	世帯数	10,339 世帯	子ども会数	（四子連）	14 団体
0～14 歳	3,089 人 14.3%	うち 独居高齢	1,085 世帯	・会員数	加入	1,004 人
15～64 歳	14,075 人 65.4%	うち 高齢夫婦	855 世帯	ふれあい	単一メニュー	25
65 歳以上	4,355 人 20.2%	自治会数	31	いきいき	カフェ	1
		民生委員定数	30	サロン	イベント	2
		老人会数	5 団体	身体障害者手帳数		522 人
		・会員数	394 人	療育手帳数		141 人



伊藤隆会長

○会長から見て大矢知地区はどんな地区？

農業の豊作を祈って獅子舞を実施しています。今でも6つの単位自治会が1年交代で当番になり、舞を踊っています。子どもたちにも参加してもらっているので、新しく大矢知にきたご家族に地区のことを知ってもらうきっかけにもなっています。

○おすすめの地区社協活動

朝明中学校には、ボランティアサークルがあり、地区社協のイベントに参加してもらっています。中でも、青少年部が行うスタンプラリーでは、中学生の皆さんにスタッフとなっていただいています。中学生がスタッフとなることで、小学生の参加が多くなり、保護者の方にも参加していただけます。他の取り組みでも色々な方を巻き込み、参加者を増やしていきたいですね。

○どんなまちづくりを心がけているか

敬老事業や高齢者イベントでは、あさけプラザを利用してきましたが、遠くて参加できないという声をいただいています。参加者の年齢層などを考えて内容や場所を考えたいです。また、ボッチャなどのユニバーサルスポーツもたくさんの方が参加してくれると思うので、スポーツ振興会などと連携をとって事業を進めています。

また、生活の不安や障害のある方に対して個別的なサポートができる取り組みを行いたいですね。何をやるにしても、参加する人もスタッフも楽しめるようなものにしたいです。

○まちづくりのキーワードは

関わる人みんなが楽しむことができる活動を考えることです。

八郷地区

[八郷支部]

○地区の状況

人口	8,661 人	世帯数	3,605 世帯	子ども会数	（四子連）	なし
0～14 歳	963 人 11.1%	うち 独居高齢	480 世帯	・会員数	加入	
15～64 歳	5,428 人 62.6%	うち 高齢夫婦	468 世帯	ふれあい	単一メニュー	23
65 歳以上	2,270 人 26.2%	自治会数	11	いきいき	カフェ	2
		民生委員定数	23*	サロン	イベント	1
		老人会数	8 団体*	身体障害者手帳数		353 人*
		・会員数	454 人*	療育手帳数		71 人*

*印は八郷地区全体



松井育夫会長

○八郷社会福祉協議会について

パソコンで事務作業を行っていますが、パソコンができる人に負担が偏っています。また、地区社協の委員は輪番です。伊坂台は人口が多いため、次に回ってくるまでの期間が長いですが、旧町は人口が減少傾向にあり、輪番の期間が短く負担が大きいです。

○おすすめの地域福祉活動

ふれあいまつりと八郷フェスタは毎年1,000人以上の方が参加しています。私も小さいころ家族に連れて行ってもらいました。中でも、八郷汁は地区の子どもたちと一緒に調理を行っています。具材の野菜を育てるところから地域で行っており、食育にもなっています。

○どんなまちづくりを心がけているか

八郷地区社協は2年ごと委員が全員入れ替わります。「2年で終わるからいいや」とならないためにも、皆で積極的に意見を出し合う環境をつくり、次年度以降に改善できるようにしています。あとは、事業が継続できるように一人で決めずみんなで決めるようにしています。

○まちづくりのキーワードは

みんなが主体的に話し合っ事業を考えることです。

〔八郷西支部〕

○地区の状況

人口	3,802 人	世帯数	1,487 世帯	子ども会数	〔四子連〕	3 団体
0～14 歳	369 人 9.7%	うち 独居高齢	274 世帯	・会員数	加入	168 人
15～64 歳	2,053 人 53.9%	うち 高齢夫婦	352 世帯	ふれあい	単一メニュー	9
65 歳以上	1,380 人 36.2%	自治会数	9	いきいき	カフェ	2
		民生委員定数	23*	サロン	イベント	2
		老人会数	8 団体*	身体障害者手帳数		353 人*
		・会員数	454 人*	療育手帳数		71 人*

*印は八郷地区全体



○八郷西社会福祉協議会について

今までの取り組みを無理のない形で続けたいです。負担に感じる部分は運営方法を変えたいです。特に、誰かに負担が集中するような運営は避けたいです。会長が変わっても、継続できるような組織運営をしていきたいですね。

野呂明良会長

○おすすめの地区社協活動

高齢者大学という講座を八郷地区と合同で続けていて、参加者の学びの場になっています。八郷西の方では 100 名を超える方が出席しています。

○どんなまちづくりを心がけているか

自分のやりたいことが地域で見つかるとういことです。私の場合、「まんまる座」という太鼓グループの活動を八郷西小で続けていますが、地域でやりたいことを見つけてもらい、多くの人が関わってくれとういと思います。また、地区社協が小学校単位で連携をしながら交流の機会をつくっていきとういと思います。

○まちづくりのキーワードは

好きなことをしながら地域の活動に参加する。

下野地区

○地区の状況

人口	8,570 人	世帯数	3,614 世帯	子ども会数	〔四子連〕	6 団体
0～14 歳	1,135 人 13.2%	うち 独居高齢	611 世帯	・会員数	加入	260 人
15～64 歳	5,078 人 59.2%	うち 高齢夫婦	475 世帯	ふれあい	単一メニュー	16
65 歳以上	2,357 人 27.5%	自治会数	12	いきいき	カフェ	3
		民生委員定数	17	サロン	イベント	0
		老人会数	7 団体	身体障害者手帳数		268 人
		・会員数	421 人	療育手帳数		74 人



○会長から見て下野地区はどんな地区？

定年退職の年齢が延び、地域と関わり始める年齢が以前より高齢になってきていて感じています。その中で活動を継続していくにはどうしていけばよいか考えていきたいです。

野呂康彦会長

○おすすめの地区社協活動

福祉講演会、文化祭、福祉のつどいなどを地区で実施しています。大々的なイベントは市内中心部で開催されることがほとんどです。だからこそ、身近なところでイベントを開催することで高齢者の方々の外出機会につなげていきたいと思っています。

○どんなまちづくりを心がけているか

地区社協での活動を継続することで皆さんに楽しんでいただきたいと思います。そのためにも、無理はせず自分たちも楽しむことを大事にできたらと思います。

○まちづくりのキーワードは

身近な場所でスタッフも参加者も楽しむことができるようにする。

保々地区

○地区の状況

人口	6,509 人	世帯数	2,206 世帯	子ども会数・会員数	〔四子連加入〕	なし
0～14 歳	709 人 10.8%	うち 独居高齢	339 世帯	ふれあい	7	単メニュー 7
15～64 歳	4,037 人 62.0%	うち 高齢夫婦	348 世帯	いきいき	7	カフェ 0
65 歳以上	1,763 人 27.0%	自治会数	14	サロン		イベント 0
		民生委員定数	16	身体障害者手帳数		174 人
		老人会数・会員数	7 団体 509 人	療育手帳数		40 人



國保稔会長

○会長から見て保々地区はどんな地区？

先祖代々の人が住んでいる場所では、重いもののゴミ出しや、病院の送り迎え、何かあった時の親族への連絡など近所同士で助け合う風土が残っていますね。

○おすすめの地域福祉活動

毎年開催している敬老慰安会では米寿のお祝いなどをしています。お祝いを通して日々の生活のモチベーションアップにつながって欲しいです。年に1回ですが、高齢者の皆さんが出かけるきっかけになればと思います。地元の幼児から高校生までたくさん子どもたちが手紙や演奏会などでお祝いをしています。

○どんなまちづくりを心がけているか

私は生まれが保々ではないため、最初は地区の活動で分からないこともありましたが、周りの皆さんに助けてもらってきました。その経験もあり、1人で地区の活動は進められないと考えており、みんなで協力しながら事業を進めていくことを一番大事にしています。

○まちづくりのキーワードは

みんなで協力しながら事業を進めていきます。

中ブロック

橋北地区

○地区の状況

人口	5,205 人	世帯数	2,075 世帯	子ども会数・会員数	（四子連）なし
0～14 歳	499 人 9.5%	うち 独居高齢	548 世帯	ふれあい いきいき サロン	2 2 0
15～64 歳	3,062 人 58.8%	うち 高齢夫婦	282 世帯	単一メニュー カフェ イベント	2 0 0
65 歳以上	1,644 人 31.5%	自治会数	21	身体障害者手帳数	208 人
		民生委員定数	18	療育手帳数	48 人
		老人会数・会員数	なし		



亀井正明会長

○橋北地区社会福祉協議会について

地区社協の活動を継続していくために、後任の方も実施できるような事業の進め方をしたいですね。

○おすすめの地区社協活動

橋北地区には「ごちゃまぜ祭り」があります。名前の通り、万古焼の販売やキッチンカーなど、様々な催しを行っています。こども園や母子寡婦福祉会など地域の団体の他、橋北中学校にも声をかけていて、中学生がボランティアで 20 名ほど参加しています。中学生の方から祭りの企画立案をしてもらうこともあります。子どもの時に地域の活動に主体的に関わることで、大人になった時に地域の活動に携わってもらいたいですね。

○どんなまちづくりを心がけているか

橋北地区の子どもたちに、地区に対する愛着や故郷の思い出をつくってもらいたいですね。ごちゃまぜ祭りについても、万古祭りが他の地区で開催されるようになるなど、地域で思い出をつくる機会が減っているように感じて開催するようになりました。愛着や思い出を自分の核にもらい、大きくなった時に「地域でこんなことをしたい」「地域の活動を手伝いたい」と思ってもらいたいですね。

○まちづくりのキーワードは

子どもたちに地区への愛着や故郷の思い出をつくってもらうことです。

共同地区

○地区の状況

人口	7,686 人	世帯数	3,589 世帯	子ども会数・会員数	（四子連）11 団体
0～14 歳	704 人 9.2%	うち 独居高齢	730 世帯	ふれあい いきいき サロン	3 1 1
15～64 歳	4,972 人 64.7%	うち 高齢夫婦	354 世帯	単一メニュー カフェ イベント	3 1 1
65 歳以上	2,010 人 26.2%	自治会数	33	身体障害者手帳数	741 人*
		民生委員定数	14	療育手帳数	161 人*
		老人会数・会員数	10 団体 733 人		

*印は中部地区全体



真弓俊昭会長

○共同地区社会福祉協議会について

ニーズに合う活動をすれば人は集まると考えています。「健康」をテーマにしたり、景品や商品を日常的に使うものにして参加者を集めています。共同地区には商店や企業が多くあるので、協賛などを募りながら一緒に何か取り組めるとよいですね。

○おすすめの地区社協活動

未病ヨガや健康講座などは健康をテーマにすると高齢の方はたくさん集まってくれています。グラウンドゴルフ大会の商品はなんと「卵」です。皆さんにとっても好評です。

○どんなまちづくりを心がけているか

地区社協の活動をする前に家族の理解が大事になってくると思います。何をしているか家族に理解してもらうことで、家族と一緒に楽しんでいます。私の妻も一緒に参加をしてくれています。また、皆さんから聞いた話を参考に活動をするようにしています。もし、上手くいなくてもまたやり直したらよいと思っています。皆さんに楽しいと思ってもらいたいですね。

○まちづくりのキーワードは

家族と一緒に！参加してくれる皆さんの声を聞いて活動を考えることですね。

同和地区

○地区の状況

*印は中部地区全体 *は同和・中央・港の合計

人口	685 人	世帯数	263 世帯	子ども会数	（四子連）	7 団体*
0～14 歳	70 人 10.2%	うち 独居高齢	91 世帯	・会員数	加入	288 人*
15～64 歳	371 人 54.1%	うち 高齢夫婦	38 世帯	ふれあい	単一メニュー	5
65 歳以上	244 人 35.6%	自治会数	6	いきいき	カフェ	1
		民生委員定数	2	サロン	イベント	1
		老人会数	なし	身体障害者手帳数		741 人*
		・会員数		療育手帳数		161 人*



○同和地区社会福祉協議会について

四日市の中で最後に組織化された地区社協だと聞いています。小さいまちなので近所づきあいの延長上に地区社会福祉協議会の活動があります。大きい事業は中央地区と合同で実施したりするなど近隣地区と連携した取り組みを実施しています。

大野武毅会長

○おすすめの地区社協活動

川遊びにはたくさん子どもたちに参加してもらっています。ウナギのつかみ取りは特に盛り上がりです。小学校の校長先生なども様子を見に来てくださるので子どもたちも喜んでいきます。

○どんなまちづくりを心がけているか

中央地区との合同行事ではたくさんの人数が参加していただけますが、敬老会や高齢者の集いなどは参加者が少ないです。この地域の高齢者の皆さんは子どもの時にお世話になった方々です。近い存在ですから細かいニーズを確認できると思います。高齢化もかなり進んでいますので高齢者の皆さんを中心に楽しむことができる行事を考え、高齢になっても楽しめるまちをつくっていきたいです。

○まちづくりのキーワードは

身近なつながりで、老後も楽しいまちだと思えるように企画を考えます。

中央地区

○地区の状況

*印は中部地区全体 *は同和・中央・港の合計

人口	2,097 人	世帯数	886 世帯	子ども会数	（四子連）	7 団体*
0～14 歳	171 人 8.2%	うち 独居高齢	262 世帯	・会員数	加入	288 人*
15～64 歳	1,224 人 58.4%	うち 高齢夫婦	115 世帯	ふれあい	単一メニュー	2
65 歳以上	702 人 33.5%	自治会数	13	いきいき	カフェ	0
		民生委員定数	7	サロン	イベント	1
		老人会数	5 団体	身体障害者手帳数		741 人*
		・会員数	202 人	療育手帳数		161 人*



○会長から見た中央地区はどんな地区？

近鉄と JR が本町に一緒にあった時には中央地区が四日市の中でも特に賑わっていました。近鉄が安島の方に移転して中央地区に来る人が少なくなった気がします。中川浩一会長マンションができたので中央地区の住民になった方も多いと思います。

○おすすめの地区社協活動

中央地区、同和地区と一緒に餅つき大会とグラウンドゴルフ大会をしています。地区を越えた取り組みは珍しいかもしれません。他にも、地区社協 20 周年のイベントを私も中心の一部を担って実施しています。令和 7 年は 30 周年を迎え、記念イベントでは次世代の若いリーダーを中心に企画してもらいます。地域のリーダーが活躍できるイベントとして世代を超えて実施していきたいです。

○どんなまちづくりを心がけているか

地元の飲食店で 20 代の男性 2 人が、運動会のリレーや川遊びの話をしていました。小さい時の地域での活動が楽しかったという会話が聞こえてきて嬉しかったですね。今の地域の子も大人になった時に「地域の行事楽しかったな」と言ってもらえるような行事をこれからも企画していきたいです。子どもたちの記憶に残るようなイベントを企画したいです。子どもが参加する行事には大人も参加しますので、結果的に地域の顔見知りの輪が広がればと思います。

○まちづくりのキーワードは

記憶に残る事業でたくさん参加していただき顔見知りの輪をつくっていく。

港地区

○地区の状況

*印は中部地区全体 *は同和・中央・港の合計

人口	1,440 人	世帯数	577 世帯	子ども会数	(四子連)	7 団体*
0～14 歳	60 人 4.1%	うち 独居高齢	251 世帯	・会員数	加入	288 人*
15～64 歳	784 人 54.4%	うち 高齢夫婦	83 世帯	ふれあい	単一メニュー	10
65 歳以上	596 人 41.3%	自治会数	12	いきいき	カフェ	0
		民生委員定数	8	サロン	イベント	1
		老人会数	なし	身体障害者手帳数		741 人*
		・会員数		療育手帳数		161 人*



○港地区社会福祉協議会について

地域の高齢化もちろんですが、地区社協の役員も高齢化が進んでいます。小学校との連携やコンビナートなど企業にも協力をいただきながら事業の展開をしてい 吉田泰宣会長
く必要があります。

○おすすめの地域福祉活動

グラウンドゴルフ大会のスタッフとして中学生に参加してもらっています。地域の行事に触れていただく機会となっています。また、ふれあい広場は地元の企業にも応援していただいている地域の交流イベントです。他にもみなと在宅介護支援センターとコラボして、認知症カフェを実施しています。地域の関係者、民生委員児童委員、高齢者などが集まる機会となっています。

○どんなまちづくりを心がけているか

町単位（単位自治会のつながり）で地域の行事に取り組む意識をつくるのが大事だと思っています。そして、自分が思っていることは口に出して活動のきっかけをつくるよう心がけています。口に出すことで有言実行しないと・・・考えていることを口に出すことで活動のきっかけをつくりたいと考えています。

○まちづくりのキーワードは

やりたいことを口に出すことで、みんなの活動につながっていければ。近隣のつながりを大切にしたいまちづくりをしたいです。

浜田地区

○地区の状況

*印は中部地区全体

人口	11,799 人	世帯数	5,424 世帯	子ども会数	(四子連)	25 団体
0～14 歳	1,143 人 9.6%	うち 独居高齢	994 世帯	・会員数	加入	595 人
15～64 歳	8,130 人 68.9%	うち 高齢夫婦	396 世帯	ふれあい	単一メニュー	5
65 歳以上	2,526 人 21.4%	自治会数	30	いきいき	カフェ	1
		民生委員定数	27	サロン	イベント	0
		老人会数	なし	身体障害者手帳数		741 人*
		・会員数		療育手帳数		161 人*



○浜田地区社会福祉協議会について

浜田地区にはマンションも多く地域の関係性が希薄な面もあるが、小学校を中心に地域の連携のネットワークをつくっています。地区社協の役員の人たちみんな 池畑清實会長
で頑張ってもらっています。

○おすすめの地区社協活動

夏祭りやお餅つきは多世代交流の場になっています。お祭りが好きな方はたくさんおられ、お祭りというお手伝いをしてくださる方が、たくさんいます。祭りに合わせて清掃活動をすることで祭り＋〇〇といった環境活動にもつながるように仕掛けています。楽しみながら環境など違うテーマの機会にしていく活動はおすすめです。

○どんなまちづくりを心がけているか

まずは、楽しく地区の行事に参加してもらいたいですね。行事を通して、地域の人同士で話して、笑いあって、楽しんでもらいたいです。楽しんだ延長線上で活動に協力してくれる人が増えるとよいと思います。あと、サロン同士など違うコミュニティの方がつながっていく機会をつくっていきたいですね。地域のつながりが増えていくと嬉しく思います。

○まちづくりのキーワードは

まずは活動に参加してもらって、楽しんでもらうことから。

三重地区

[みえ中央支部]

○地区の状況

人口	14,021人	世帯数	4,575世帯	子ども会数	（四子連）	14団体*
0～14歳	2,035人 14.5%	うち 独居高齢	901世帯	・会員数	加入	905人*
15～64歳	8,387人 59.8%	うち 高齢夫婦	728世帯	ふれあい	単-メニュー	7
65歳以上	3,559人 25.7%	自治会数	7	いきいき	カフェ	0
		民生委員定数	37*	サロン	イベント	1
		老人会数	7団体*	身体障害者手帳数		766人*
		・会員数	481人*	療育手帳数		199人*

*印は三重地区全体



○会長から見たみえ中央地区はどんな地区？

三重地区では三重小が唯一の小学校でしたが、団地がつくられ、三重西・三重北・藤澤和美会長大谷台小と近隣に新しい学校が建てられていきました。三重地区の中央にある地域で地区市民センターもあります。

○おすすめの地区社協活動

令和5年度からたくさんの行事をまとめて実施する、「文化とスポーツの祭典」という行事を始めました。小学生の合奏や獅子舞など、大人も子どもも一緒に参加します。また、ポッチャという障害者スポーツも地区で盛り上がっています。障害理解の機会として、また世代を問わずたくさんの方に参加いただいています。地区社協でポッチャのセットを2つ購入して活動をしています。

○どんなまちづくりを心がけているか

行事を行う時の目的を理解して動いていくことが大切です。自分一人では地域の活動を進めることはできませんので、なぜその活動をみんなで進めるのか確認して活動に取り組むように心がけています。地区社協の役員をはじめ市民のみんなが参加した勉強会などを開催し、共通の目標を持つことができますとよいと思います。

○まちづくりのキーワードは

・みんなで話し合い、目的や目標を整理して、みんなで活動を進めていきたい。

[三重北支部]

○地区の状況

人口	3,936人	世帯数	2,864世帯	子ども会数	（四子連）	14団体*
0～14歳	357人 9.1%	うち 独居高齢	360世帯	・会員数	加入	905人*
15～64歳	2,300人 58.4%	うち 高齢夫婦	285世帯	ふれあい	単-メニュー	15
65歳以上	1,279人 32.5%	自治会数	8	いきいき	カフェ	2
		民生委員定数	37*	サロン	イベント	1
		老人会数	7団体*	身体障害者手帳数		766人*
		・会員数	481人*	療育手帳数		199人*

*印は三重地区全体



○三重北社会福祉協議会について

地区社協の役員は輪番制で、継続して組織活動をする難しさがあります。スムーズに引継ぎができるように資料などをデータで残しながら役員が取り組めるように事業が実施されています。

片岡博会長

○おすすめの地域福祉活動

1年に1回開催する健康づくりウォーキングは地区の皆さんが楽しみにしています。令和6年度は滋賀県長浜市までバスを借りて散策しながらの開催でした。

○どんなまちづくりを心がけているか

地域の皆さんに必要な事業を実施できたらと考えています。例えば、三重北では敬老会を行っていますが、実行委員会のメンバーが当事者であったりします。スタッフや参加者の枠を超えてどんな形で行えばよいか意見を聞きながら企画を進めるようにしています。

○まちづくりのキーワードは

参加者の思いを汲んで、誰もが事業を推進、誰もが利用者にまちづくり

[三重西支部]

○地区の状況

人口	4,066 人	世帯数	1,833 世帯	*印は三重地区全体	
0～14 歳	394 人 9.6%	うち 独居高齢	458 世帯	子ども会数・会員数	(四子連 加入) 14 団体* 905 人*
15～64 歳	2,030 人 49.9%	うち 高齢夫婦	340 世帯	ふれあい いきいき サロン	16 単-メニュー 16 カフェ 0 イベント 0
65 歳以上	1,642 人 40.3%	自治会数	17	身体障害者手帳数	766 人*
		民生委員定数	37*	療育手帳数	199 人*
		老人会数・会員数	7 団体* 481 人*		



藤田耕司会長

○三重西社会福祉協議会について

役員の任期が1年となっており継続されず、地区社協の事業を理解する前に交代されてしまう方も多いです。役員やスタッフの担い手の確保に苦勞しており、自治会、市民センターや団体事務局の皆さんの協力のもと地域の人を楽しめる行事を考えています。

○おすすめの地域福祉活動

グラウンドゴルフやテニス大会など長年継続している事業があります。年齢問わず参加できるのでこれからも続けていきたいです。健康づくりウォーキングも好評でたくさんの方に参加していただいています。

○どんなまちづくりを心がけているか

コロナ以降に、参加者が減ったり、イベントの規模が以前より小さくなってきていますが、それでも地区の皆さんが集まる機会となる行事は続けていきたいです。地区には色々な団体がありますが、行事などを進めていく時には団体同士が協力し合えるような環境をつくっていききたいですね。

○まちづくりのキーワードは

継続は力なり、地区のみんなが楽しむことを継続して続けていきたい。

県地区

○地区の状況

人口	6,657 人	世帯数	2,409 世帯	子ども会数 (四子連 加入) 12 団体	
0～14 歳	817 人 12.2%	うち 独居高齢	446 世帯	・会員数	268 人
15～64 歳	3,581 人 53.7%	うち 高齢夫婦	501 世帯	ふれあい いきいき サロン	35 単-メニュー 27 カフェ 3 イベント 5
65 歳以上	2,259 人 33.9%	自治会数	14	身体障害者手帳数	229 人
		民生委員定数	14	療育手帳数	58 人
		老人会数・会員数	7 団体 445 人		



萩宣彦会長

○県地区社会福祉協議会について

コロナをきっかけに中止になった事業があります。コロナ前の事業を再開するのがよいのか、新しい形で何かを始めるのが難しいですね。今必要な活動を役員で考えて事業を進めていきたいです。

○おすすめの地区社協活動

綱引き大会では、100 名程の方にエントリーしていただいています。子ども VS 消防団のデモンストレーションをするなど幅広い世代が楽しめる工夫をしています。また、年に2回、高齢者の方のお楽しみ会を開催しています。一人でも多くの人に参加してもらいたいという思いから、家から会場までの送迎を実施しています。

○どんなまちづくりを心がけているか

地区社協の事業に子どもたちがたくさん参加してもらえるように工夫をしています。これからの地区を担っていく、子どもたち、高校生・大学生の参加が増えて、地域のつながりを大切に考える子どもたちにしたいです。そして世代を意識して事業の啓発を進めていくことを大事に考えています。

○まちづくりのキーワードは

幅広い世代が楽しむことができる、地区社協の事業

神前地区

○地区の状況

人口	6,752 人	世帯数	2,717 世帯	子ども会数	（四子連）	3 団体
0～14 歳	776 人 11.4%	うち 独居高齢	577 世帯	・会員数	加入	161 人
15～64 歳	3,779 人 55.9%	うち 高齢夫婦	402 世帯	ふれあい	単一メニュー	24
65 歳以上	2,197 人 32.5%	自治会数	10	いきいき	カフェ	4
		民生委員定数	17	サロン	イベント	5
		老人会数	6 団体	身体障害者手帳数		242 人
		・会員数	563 人	療育手帳数		58 人



○神前地区社会福祉協議会について

各部の部長や役員が中心になって企画を考えてもらっています。各部が主導しながら事業を展開することで各部の部員が主体的に進めてよい関係をつくっています。 松野賢司会長

○おすすめの地域福祉活動

地区文化祭では、小学校で育てたもち米や、地元の畑で育てたお米や野菜を販売するなどの地域の関係性の中でそれぞれが強みを出し合って開催しています。連合自治会や地区社協、様々な団体が集まった実行委員会を立ち上げる形で進めていくことで社会資源がフル活用されています。

○どんなまちづくりを心がけているか

神前地区は部会で主体的に事業を企画実施しているので、皆さんの考えを尊重していきたいと思います。神前には地区社協で管理している郷土資料館があります。四郷の郷土資料館に見学に行った時一つの観光スポットになっていると感じました。神前地区の郷土資料館も新たな観光スポットで地域の活動拠点の一つになればと考えています。

○まちづくりのキーワードは

地域の強みを持ち寄ることで、社会資源をフル活用したまちづくり

川島地区

○地区の状況

人口	11,500 人	世帯数	4,343 世帯	子ども会数	（四子連）	なし
0～14 歳	1,273 人 11.1%	うち 独居高齢	688 世帯	・会員数	加入	
15～64 歳	6,921 人 60.2%	うち 高齢夫婦	754 世帯	ふれあい	単一メニュー	17
65 歳以上	3,306 人 28.7%	自治会数	13	いきいき	カフェ	8
		民生委員定数	22	サロン	イベント	4
		老人会数	6 団体	身体障害者手帳数		306 人
		・会員数	328 人	療育手帳数		97 人



○川島地区社会福祉協議会について

川島地区はまちづくり協議会の中に、地区社会福祉協議会の他に自治会や、委員会などが入っています。各団体でそれぞれの役割がありますが、「オール川島」で地区のことに取り組んでいけたらよいと思います。 松岡幸彦会長

○おすすめの地域福祉活動

地区の文化祭の企画として川島小学校の子どもたちに環境ポスターを作成してもらっています。ポスターの展示や子どもたちが楽しめるレクリエーションもあるので親子連れの方にたくさん来ていただいています。若い世代の方々も地域の行事に参加できるように進めています。

○どんなまちづくりを心がけているか

役員のほとんどが 70 代で、50 代・60 代は数名程度です。60 代だと働いている方も多いので、地域の活動に参加できる人の平均年齢が上がっている気がします。上手に 60 代以下の方に地域の活動に携わっていただけるように声かけをしています。鹿化川の桜祭りなど年齢問わず参加できるイベントで協力していただきたいです。

○まちづくりのキーワードは

世代を超え、各団体の協力のもと進めるまちづくり

桜地区

○地区の状況

人口	14,221 人	世帯数	5,439 世帯	子ども会数	〔四子連〕	3 団体
0～14 歳	1,404 人 9.8%	うち 独居高齢	988 世帯	・会員数	加入	140 人
15～64 歳	7,890 人 55.4%	うち 高齢夫婦	1,114 世帯	ふれあい	単一メニュー	8
65 歳以上	4,927 人 34.6%	自治会数	31	いきいき	カフェ	4
		民生委員定数	28	サロン	イベント	5
		老人会数	4 団体	身体障害者手帳数		470 人
		・会員数	210 人	療育手帳数		104 人



○桜地区社会福祉協議会について

桜地区では各関係団体の方が理事になっていただいています。地区社協は団体の集合体。何か活動を行う時に、各団体の協力のもと地区社会福祉協議会が成り立つ 位田良巳会長
 ていると言えます。

○おすすめの地域福祉活動

スポーツ推進協議会主催でオリリンピックの開催翌年に合わせて町民運動会「桜輪ピック」を開催しています。各自治会が参加して桜全体の行事として盛り上がっています。毎年開催の事業でもたくさんの交流の機会となっていますが、4年に一度の開催ですから、「桜輪ピック」は地区の皆さんにとって特別な事業となっています。

○どんなまちづくりを心がけているか

楽しめる活動をしたいと考えています。地区社協のスタッフの皆さんそれぞれに企画案を出していただき、その中から何をするか決めています。参加する人はもちろん、企画する人も楽しいと思えるようにしていきたいですね。

○まちづくりのキーワードは

地区のみんなの意見を出し合い、企画する人も参加する人もみんなで楽しんでもらうまちづくり

南ブロック

常磐地区

○地区の状況

人口	28,044 人	世帯数	14,158 世帯	子ども会数・会員数	（四子連） 加入	なし
0～14 歳	3,478 人 12.4%	うち 独居高齢	1,939 世帯	ふれあい いきいき サロン	30	単一メニュー 18 カフェ 6 イベント 6
15～64 歳	18,627 人 66.4%	うち 高齢夫婦	1,071 世帯	自治会数	47	
65 歳以上	5,939 人 21.1%	民生委員定数	48	老人会数・会員数	なし	
		身体障害者手帳数	789 人	療育手帳数	213 人	



横田紘治会長

○常磐地区はどんな地区？

以前は畑や田んぼがたくさんありましたが、開発が進み住宅地、アパートやマンションも多くなっています。常磐に子どもの頃から住んでいるというご家庭よりも引越してきた方が多いように思います。その分地域に対する思いや考え方も多様ではないかと思っています。

○おすすめの地域福祉活動

私は身体を動かすことが好きなので、地区社協で年1回企画しているウォーキングがおすすめです。常磐のまちから歩いて目的地まで行くのですが、幅広い世代の方が参加しています。リピーターも多く「今度はどこへ行こう」とみんなで次の行き先を企画しています。また、常磐地区ではボッチャやSSピンポンといったユニバーサルスポーツの交流会も実施しています。年代や身体能力に関係なく誰もが参加できることが魅力です。パラリンピック等の正式種目でし障害理解の機会としても有効だと考えています。

○どんなまちづくりを心がけているか

小学生やその保護者が中心となって実施する「お神輿」は地域にとっても、高齢者も楽しめるイベントでした。ユニバーサルスポーツもそうですが、幅広い世代にまちづくりの活動に参加していただきたいです。仕事で地域活動に中々参加できない方も退職すれば時間に余裕ができるはず。主体的に参加することは難しい方も多いでしょうから、積極的に参加してもらうにはやはり「声かけ」が重要。声かけで地域の方をお誘いして沢山の人が常磐のまちづくり活動に関わって欲しいですね。

○まちづくりのキーワードは

幅広い世代の方に声をかけてたくさんの人に参加してもらいたいですね。

塩浜地区

○地区の状況

人口	5,889 人	世帯数	2,962 世帯	子ども会数・会員数	（四子連） 加入	なし
0～14 歳	466 人 7.9%	うち 独居高齢	672 世帯	ふれあい いきいき サロン	23	単一メニュー 12 カフェ 1 イベント 10
15～64 歳	3,496 人 59.3%	うち 高齢夫婦	327 世帯	自治会数	21	
65 歳以上	1,927 人 32.7%	民生委員定数	20	老人会数・会員数	なし	
		身体障害者手帳数	214 人	療育手帳数	48 人	



今村将人会長

○塩浜地区社会福祉協議会について

令和6年度から部会がなくなり、社協をどのように運営させていくか考えているところです。地区社協の規模を縮小しましたが、楽しくできる活動は何か考えていく必要があります。

○おすすめの地域福祉活動

各サロン活動のおかげで、地域の方々が顔を合わせる機会ができています。運営している方も、参加している方も楽しそうに参加していただいています。塩浜中学校では人権コンサートを開催することで人権について中学生に学んでもらう機会をつくっています。

○どんなまちづくりを心がけているか

塩浜はコンビナートのまちで、たくさんの企業があり、地区の行事にも参加してもらっています。これからも企業と地域が協力し合ってまちづくりができればと思います。文化祭などを通して「塩浜ってこんなまちだよ」ということを地域の人や参加者に知ってもらいたいなと思います。また、これから外国にルーツのある方も増えてくると思うので、異文化交流を目的とした民族衣装の試着、コンサートや踊り、食事などの取り組みを行いたいなと思います。家族3世代が楽しめる取り組みだとよりよいですね。

○まちづくりのキーワードは

企業と協力しながらみんなが楽しむことができる活動を考えることです。

日永地区

○地区の状況

人口	18,451人	世帯数	9,264世帯	子ども会数・会員数	（四子連） 加入	なし
0～14歳	2,421人 13.1%	うち 独居高齢	1,391世帯	ふれあい いきいき サロン	35	単一メニュー 23 カフェ 12 イベント 0
15～64歳	11,867人 64.3%	うち 高齢夫婦	738世帯	身体障害者手帳数	591人	
65歳以上	4,163人 22.5%	自治会数	32	療育手帳数	220人	
		民生委員定数	32			
		老人会数・会員数	10団体 457人			



伊藤淳一会長

○日永地区社会福祉協議会について

他の市町でペーパーレス化が進んでいるときいて、日永地区社協でもペーパーレス化を進めていますが、我々の世代は対応に苦労しています。文化祭に関する業務連絡もオンライン上で行っていましたが、「どう確認するのか」という声が上がっていました。どの様に進めていくと負担がなく効率的に進めていけるか考えていきたいですね。

○おすすめの地区社協活動

各自治会単位で高齢者のつどいを開催していて、高齢者が出向く機会をつくっています。民生委員や福祉委員なども参加するため、参加者の皆さんに身近で相談できる人を紹介する機会にもなります。また、文化祭などの行事では、地区周辺の高校生にボランティアで参加してもらっています。若い世代の方が運営側に入っていただくと活気づきますね。

○どんなまちづくりを心がけているか

地区社協の事業を行う時、皆さんが安心して携われるよう、意見を聞きながら進めています。その中で目的や意図をお互いに確認しながら進めるようにしています。皆さんに事業を楽しんでもらいたいですね。

○まちづくりのキーワードは

目的や意図を明確にしながら事業を行っていきたい。

四郷地区

[旧四郷支部]

○地区の状況

人口	9,539人	世帯数	3,842世帯	子ども会数・会員数	（四子連） 加入	なし
0～14歳	1,295人 13.6%	うち 独居高齢	705世帯	ふれあい いきいき サロン	22	単一メニュー 15 カフェ 2 イベント 5
15～64歳	5,917人 62.0%	うち 高齢夫婦	440世帯	身体障害者手帳数	827人*	
65歳以上	2,327人 24.4%	自治会数	33	療育手帳数	282人*	
		民生委員定数	47*			
		老人会数・会員数	5団体* 459人*			

*印は四郷地区全体



伊藤斉会長

○会長から見て旧四郷地区はどんな地区？

50年近く四郷に住んでいますが、田んぼやレンゲ畑だったところが、住宅地に変わっていきました。伝統的な行事も多く、鎌倉時代から続く大念仏行事ではたくさんの方に来ていただきます。最近は参加者の高齢化が進み、四郷高校や四日市大学の学生さんにお手伝いしていただくこともあります。

○おすすめの地区社協活動

地区の運動会に共栄作業所の方々に参加してもらっています。自治会や民児協、地区社協といった地域の関係者が、利用者の皆さんと一緒に楽しい時間を過ごせています。また、共栄作業所の皆さんには地区の文化祭にも参加していただいている、地域の方の障害理解の機会になっています。

○どんなまちづくりを心がけているか

地区で何か活動を進めていこうと考える時、皆で共通認識を持てるとよいなあと考えています。地区社協総会などのあいさつでも、皆で共通認識を持って活動を進めていく必要があると話しています。聖徳太子の「和を以て貴しとなす」という言葉もありますが、色々な考え方があっても調和を大切にしながら皆で活動を進めていきたいですね。

○まちづくりのキーワードは

調和を大切にしながら活動をしていくことですね。

[笹川支部]

○地区の状況

人口	8,996人	世帯数	4,226世帯	子ども会数・会員数	（四子連加入）	なし
0～14歳	933人 10.3%	うち 独居高齢 1,026世帯		ふれあい いきいき サロン	44	単メニュー 37 カフェ 3 イベント 4
15～64歳	4,847人 53.8%	うち 高齢夫婦 671世帯		自治会数	39	
65歳以上	3,216人 35.7%			民生委員定数	47*	
				老人会数・会員数	5団体* 459人*	
				身体障害者手帳数	827人*	
				療育手帳数	282人*	

*印は四郷地区全体



○会長から見て笹川地区はどんな地区？

四日市の他の地区に比べて外国の方が多いですね。地域でバザーが開かれる時に佐々木利昌会長は、外国の方だけのブースができてたりします。他の地域の活動にもどんどん参加してもらいたいですね。

○おすすめの地区社協活動

文化祭や春・夏のお祭りは団地ができ上がった時からずっと続いている行事なので、これからも続けたいですね。

登下校の見守りやあいさつ運動を行うこともみまもりたいは通年で行っています。他の地区では旗当番などで登下校の見守りを行っていますが、共働き家庭も増えていますので、少しでも若い世代の負担を減らせればと思っています。子どもたちがあいさつを返してくれるので元気をもらえますね。外国の子どもも多いですが、言語関係なくみんなあいさつを返してくれます。

○どんなまちづくりを心がけているか

将来の笹川を担ってもらうためにも、今の子どもたちに笹川を好きになってもらいたいですね。子どもたちに楽しんでもらうためにも、できる範囲で行事は絶やさないようにしたいです。こどもみまもりの様に若い世代の皆さんが住みたくなるような活動は続けていきたいです。

○まちづくりのキーワードは

若い世代の皆さんが住みたくなるような活動を続けていきたいですね。

[高花平支部]

○地区の状況

人口	4,024人	世帯数	1,664世帯	子ども会数・会員数	（四子連加入）	なし
0～14歳	444人 11.0%	うち 独居高齢 408世帯		ふれあい いきいき サロン	12	単メニュー 9 カフェ 1 イベント 2
15～64歳	2,387人 59.3%	うち 高齢夫婦 229世帯		自治会数	19	
65歳以上	1,193人 29.6%			民生委員定数	47*	
				老人会数・会員数	5団体* 459人*	
				身体障害者手帳数	827人*	
				療育手帳数	282人*	

*印は四郷地区全体



○会長から見て高花平地区はどんな地区？

高花平地区は高花平と小林町の大きく2つに分かれています。

豊田昭夫会長

高花平の方は、団地ができ上がって60年ほど経ちますが、当時親として引っ越してきた人たちが80代になり高齢の方が多いです。当時子どもだった人たちは他のところへ引っ越していきました。小林町の方では、以前畑や田んぼだったところに30代～40代の若い世代が子どもと一緒に引っ越して来ているので、若い方が高花平に比べて多いように思います。地区にある賃貸住宅に外国の方が沢山いらっしゃいます。

○おすすめの地域福祉活動

地区のお祭りの時には、外国の方々に、民族衣装で踊っていただいたり、自国の食べ物を振舞っていただいています。また、私もスタッフとして携わっているいこいこカフェでは、1日20～30人程の地域の方に来ていただいて美味しいごはんなどを提供しています。90歳を超えた私の母もいこいこカフェが生きがいになっています。どなたに来ていただいても大丈夫なので他の地区の方がお茶をしに来てくださることもあります。

○どんなまちづくりを心がけているか

地域には自治会や民生委員、地区社協など沢山の団体があります。各団体が地域のために活動しているので、それぞれの思いがすれ違わないように、各団体が協力し合ってよりよい高花平になっていけるとよいと思います。

○まちづくりのキーワードは

各団体が協力し合いながら活動を考えることです。

楠地区

○地区の状況

人口	10,321人	世帯数	3,878世帯	子ども会数・会員数	（四子連）12団体 加入 312人
0～14歳	965人 9.3%	うち 独居高齢	789世帯	ふれあい いきいき サロン	16 単一メニュー 1 カフェ 5 イベント 10
15～64歳	6,451人 62.5%	うち 高齢夫婦	555世帯	自治会数	29
65歳以上	2,905人 28.1%	民生委員定数	29	老人会数・会員数	5団体 216人
		身体障害者手帳数	355人	療育手帳数	63人



○楠地区社会福祉協議会について

仕事では働き方改革が提唱されています。私自身、秋は行事がたくさんあって自分の時間を取ることが難しいです。運営する人の負担を軽減できると同時に、参加できる人を増やせる活動の在り方を考えていきたいですね。

神谷任男会長

○おすすめの地区社協活動

50坪の農地でふれあい農園を行っています。収穫した野菜は高齢者の配食サービスやこども食堂が活用しているので、フードロス削減にもつながっています。また、こども園の園児や先生と一緒に芋掘りや焼き芋も行っています。地域の園児と関わる機会になっています。

地区社協主催で運動会を行っていて、令和6年で69回目になります。今でも800～1,000人程の地域の人に参加しています。

○どんなまちづくりを心がけているか

地域で活動する時つながり方を大事にしています。主催者でこまめに情報共有を行い、事業が成功するように心がけています。また、声かけも大事にしている、行事の時主催者の皆さんに地域の人へ参加の声かけを積極的にしてもらっています。参加する人の中から、活動を担っていく人が出ると嬉しいです。

○まちづくりのキーワードは

声かけをして、たくさんの人に参加してもらうことです。

河原田地区

○地区の状況

人口	4,933人	世帯数	2,267世帯	子ども会数・会員数	（四子連）3団体 加入 331人
0～14歳	692人 14.0%	うち 独居高齢	317世帯	ふれあい いきいき サロン	9 単一メニュー 6 カフェ 2 イベント 1
15～64歳	3,100人 62.8%	うち 高齢夫婦	213世帯	自治会数	7
65歳以上	1,141人 23.1%	民生委員定数	8	老人会数・会員数	4団体 338人
		身体障害者手帳数	134人	療育手帳数	33人



○河原田地区社会福祉協議会について

地区社協の役員などに当て職でなることで、本来の地区で行うべき活動に負担がかかっています。負担が少ない、働きながらでもできる活動を考えることで地区社協の活動に参加する人が増えたらよいと思います。

安田淳会長

○おすすめの地域福祉活動

ささえあいステーションは付き添い送迎やゴミ出しなど地域で需要が高く、必要なことを取り組んでもらっています。地区の今後についても考えてもらっています。

サロン活動についても体操やカフェなど定期的に行われ、皆さんが元気に過ごしています。

○どんなまちづくりを心がけているか

河原田地区が小、中学生たちにとっての「ふるさと」になってもらいたいと思います。子どもの時に地区で楽しい思い出があると、「地区に恩返ししたい」と思ってもらえるのではないのでしょうか。そのためには地域の人が子どもたちに温かみを向ける必要があると思います。働きかけが何もないと便利なまちへ出て行ってしまおうと思います。

行事も大切にしつつ、地域にとって必要なことは何かを考えて、日常の活動もしていきたいです。例えば、子どもたちに遊ぶ場所や遊び方を提供などしていけるとよいですね。

○まちづくりのキーワードは

子どもたちに地区での思い出になるような活動を考えることです。

内部地区

○地区の状況

人口	18,403 人	世帯数	6,842 世帯	子ども会数	（四子連）	8 団体
0～14 歳	2,687 人 14.6%	うち 独居高齢	989 世帯	・会員数	加入	609 人
15～64 歳	11,593 人 62.9%	うち 高齢夫婦	832 世帯	ふれあい	単一メニュー	27
65 歳以上	4,123 人 22.4%	自治会数	20	いきいき	カフェ	5
		民生委員定数	27	サロン	イベント	4
		老人会数	5 団体	身体障害者手帳数		420 人
		・会員数	468 人	療育手帳数		187 人



山中博昭会長

○内部地区社会福祉協議会について

各事業に予算が計上されていますが、何ができるかみんなで考えて、計上された分のお金は地域の皆さんのために使いきりたいですね。

○おすすめの地区社協活動

参加者が多いのは文化祭と内部川の清掃ですね。中学校の吹奏楽部を呼ぶことで保護者や地域の方にたくさん来ていただけます。また、地区のうどん屋さんにも来てもらっています。地区のお店に来てもらうことで、地区全体が盛り上がりげばよいと思います。

内部川清掃は、病院に熱中症患者が出た時の対応や、交番に清掃時の見回りをしてもらうなど地域の人たちにも協力していただいています。

○どんなまちづくりを心がけているか

各事業で色々な方に携わっていただいています。主催者・参加者関係なく、関わっている皆さんに楽しんでいただきたいですね。

また、皆さんに喜んでもらうにはどうすればよいか各事業で考えていますが、事業を開催することだけを目的にするのではなく、関係者で集まってどうすればよりよくなるかを考えるなど、プロセスも大事にして欲しいですね。

○まちづくりのキーワードは

地域の皆さんに喜んでもらうためには、何をすればよいか常に考えることですね。

小山田地区

○地区の状況

人口	4,180 人	世帯数	1,303 世帯	子ども会数	（四子連）	なし
0～14 歳	366 人 8.7%	うち 独居高齢	449 世帯	・会員数	加入	
15～64 歳	2,187 人 52.3%	うち 高齢夫婦	295 世帯	ふれあい	単一メニュー	8
65 歳以上	1,627 人 38.9%	自治会数	9	いきいき	カフェ	2
		民生委員定数	11	サロン	イベント	3
		老人会数	9 団体	身体障害者手帳数		214 人
		・会員数	755 人	療育手帳数		40 人



古市義勝会長

○小山田地区社会福祉協議会について

物価の値上がりによって、今までの予算で買えていた行事の賞品やお弁当の購入が大変になっています。また、コロナによって休止した活動の引継ぎが十分にできていないところがあります。皆さん地区のための活動に尽力していただいているので、何らかの形で還元できるとよいと思います。

○おすすめの地区社協活動

YP0 パーティーと小山田ふれあいフェスティバルについては、それぞれ児童と高齢者が対象の行事になっています。文化祭と運動会のように年齢問わず参加できる地域の行事も継続していけたらと思います。ちなみに女性部の皆さんがつくる鶏飯は文化祭の名物です。

○どんなまちづくりを心がけているか

私が入るのが好きで、大事にしたいと思っています。なので、地域の皆さんが喜ぶことをしたいと考えています。そのためにも、地区社協の皆さんと日頃からコミュニケーションを取り、協力して事業を進めていくことを心がけています。

○まちづくりのキーワードは

人との日々のコミュニケーションを大事にしたいですね。

水沢地区

○地区の状況

人口	2,847 人	世帯数	843 世帯	子ども会数・会員数	〔四子連〕 加入	なし
0～14 歳	260 人 9.1%	うち 独居高齢	233 世帯	ふれあい いきいき サロン	15	単一メニュー 15 カフェ 0 イベント 0
15～64 歳	1,596 人 56.1%	うち 高齢夫婦	166 世帯	自治会数	12	
65 歳以上	991 人 34.8%	民生委員定数	8	老人会数・会員数	9 団体 544 人	身体障害者手帳数 117 人 療育手帳数 24 人



鈴木久代会長

○水沢地区はどんな地区？

山岳部を除いて、全域が市街化調整区域になっています。住宅地は集中していて、近所の人の顔と名前が分かるような関係性になっています。

○おすすめの地区社協活動

敬老行事では各町の代表が、高齢者の方を 1 軒 1 軒回って記念品を配ることで、顔の見える関係づくりができるようにしています。

子どもたちが参加する花いっぱい運動には老人会の方などにも参加してもらっています。

マラソン大会や歩こう会には学校の先生にも参加してもらっているので、子どもたちが喜んで地域の行事に参加しています。

○どんなまちづくりを心がけているか

すいざわ未来プロジェクト（空き家問題）のメンバーは 30～40 代で構成されています。今後の水沢地区について、若い世代の方々が自主性を持って考えられるよう応援していきたいです。

地域のつながりがあるからこそ、防災の力なども強くなっていくと思うので、地区の行事などを通して地域のつながりが強くなってもらえればと思います。

自分たちが活動を楽しむことに加えて、次の世代が活動に参加してもらうためにはどうしたらよいかを地域で考えていけたらと思います。

外国籍の方の移住が増えてきたので、多文化交流についても考えていきたいです。

○まちづくりのキーワードは

次の世代がつくっていくまちづくりを応援していきたいですね。

第6章 四日市市社会福祉協議会の基盤強化

1. 社会福祉協議会の使命・役割

平成23年5月、全国社会福祉協議会は社会福祉協議会法定化60周年を期にこれまで築き上げてきた社協職員としての価値観や使命感を「社協職員行動原則」として示しました。この行動原則を四日市市社会福祉協議会職員としても共有し、安心して暮らしていける「福祉のまちづくり」の実現に向けて取り組んでいます。

さらに現在の社協を取り巻く状況を踏まえて、社会福祉協議会の使命、活動原則、機能の再構築が全国社会福祉協議会にて行われ、「社会福祉協議会基本要項2025」として取りまとめられました。社会福祉協議会の使命を担っていくために、この要項をしっかりと理解し、住民とともに地域づくりを実践していくことのできる職員の育成に取り組めます。法人の基盤強化を行うことにより、あわせて本計画の推進をめざします。

「社協職員行動原則 ―私たちがめざす職員像―」より

【尊厳の尊重と自立支援】

1. 私たちは、人々の尊厳と自己決定を尊重し、その人が抱える福祉問題を解決し、住み慣れた地域でその人らしく暮らすことができるよう最善を尽くします。

【福祉コミュニティづくり】

2. 私たちは、住民が身近な地域における福祉について関心をもち、福祉活動に参加する住民主体による福祉コミュニティづくりをめざします。

【住民参加と連携・協働】

3. 私たちは、住民参加と地域の連携・協働により業務を行なうことを心がけ、地域に根差した先駆的な取り組みを応援し、地域福祉を推進する実践や活動を広げます。

【地域福祉の基盤づくり】

4. 私たちは、福祉課題を地域全体の問題として捉え、新たな事業や活動の開発、提言活動や計画づくりの取り組みに積極的に関わり、地域福祉の基盤づくりの役割を担います。

【自己研鑽、チームワーク、チャレンジ精神】

5. 私たちは、自己研鑽を重ね、職員同士のチームワークと部署間の連携を進め、チャレンジ精神をもって業務を遂行します。

【法令遵守、説明責任】

6. 私たちは、法令を遵守し、自らの組織や事業に関する説明責任を果たし、信頼され開かれた社協づくりを進めます。

社会福祉協議会基本要項 2025 より

I. 社会福祉協議会の使命、組織特性、活動原則

1. 社会福祉協議会の使命と住民主体の理念

(1) 社会福祉協議会の使命

社会福祉協議会は、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体として、住民主体の理念に基づき、住民や地域の関係者との協働により、「ともに生きる豊かな地域社会」を創造することを使命とする。

(2) 住民主体の理念

社会福祉協議会のすべての活動・事業及び組織経営は、住民主体の理念にもとづいて展開する。

住民主体の理念とは、

- ①住民を中心に置くこと、
- ②住民のニーズに基づくこと、
- ③住民の主体形成と組織化を基礎とすることである。

2. 社会福祉協議会の組織

(1) 社会福祉協議会の構成

社会福祉協議会は、住民（組織）と地域の関係者によって構成される。

(2) 社会福祉協議会の組織特性

社会福祉協議会は、次の5つの組織特性を有する。

- ① 住民や地域の関係者による協議体組織
- ② 地域福祉を創造する運動体組織
- ③ 地域の実情に応じた活動・事業を企画・実施する事業体組織
- ④ 公共性と公益性を有する民間非営利組織
- ⑤ 市区町村、都道府県・指定都市、全国に設置されている全国ネットワーク組織

3. 社会福祉協議会の活動原則

社会福祉協議会は、次の活動原則をふまえ、各地域の特性を活かした活動を進める。

- ① 住民ニーズ基本の原則
- ② 住民活動基本の原則
- ③ 個別支援と地域づくりの一体的展開の原則
- ④ 民間性の原則
- ⑤ 連携・協働の原則
- ⑥ 専門性の原則

Ⅱ. 社会福祉協議会の機能

1. 市町村社会福祉協議会の機能

市町村社会福祉協議会は、地域の実情に応じて次の機能を果たす。

- ① 住民や地域の関係者による福祉活動、ボランティア・市民活動の推進
- ② 組織化、連絡調整
- ③ 福祉活動・事業の企画・実施、支援
- ④ 相談支援
- ⑤ 権利擁護
- ⑥ 調査・研究、計画、ソーシャルアクションの実施
- ⑦ 福祉教育の推進
- ⑧ 地域福祉を支える活動者・従事者の育成と協働の促進
- ⑨ 災害時等の支援
- ⑩ 地域福祉の財源確保および助成の実施

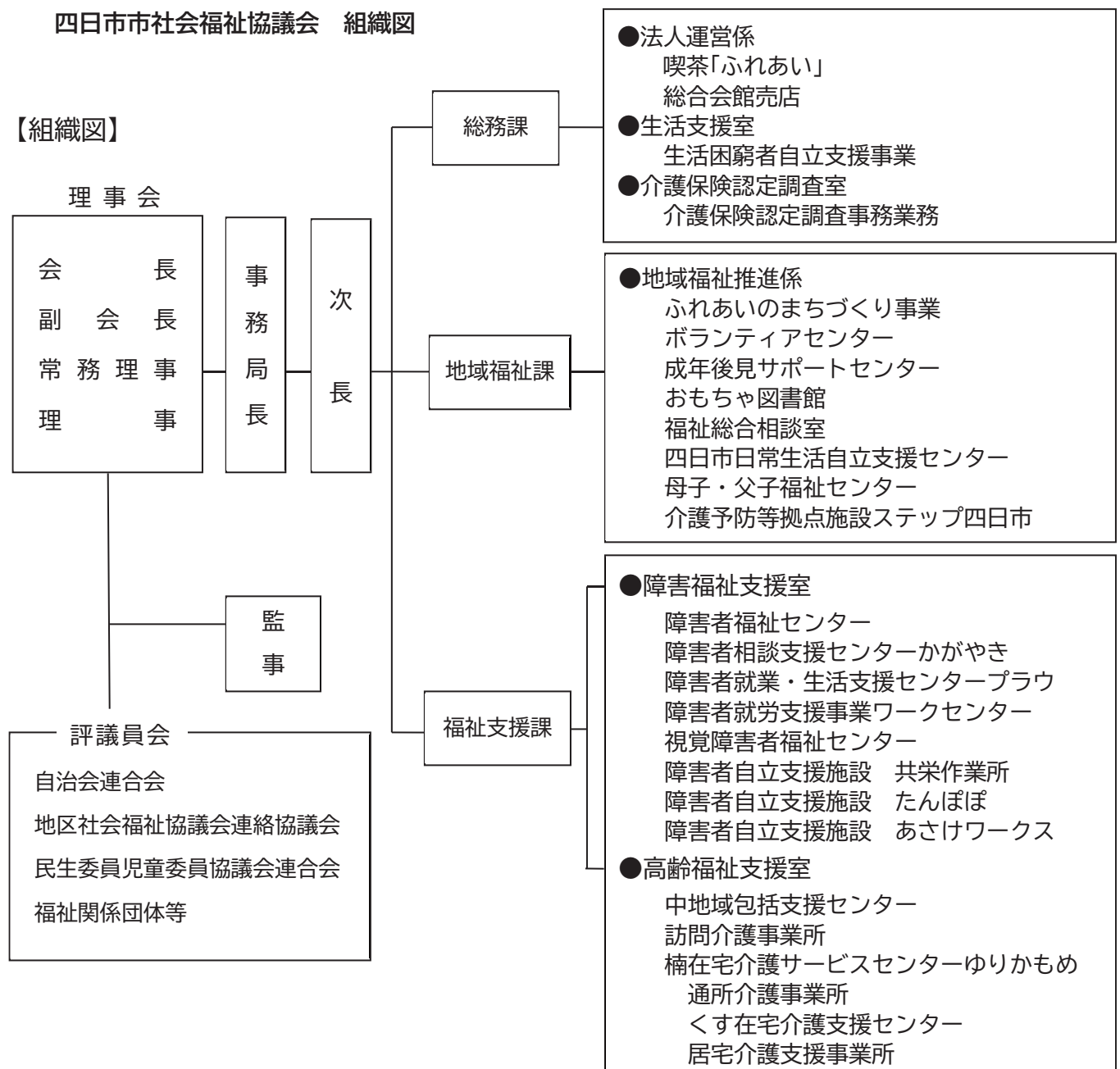
2. 法人運営基盤強化

(1) 運営状況

四社協は、昭和 41 年 7 月に法人認可を受け、共同募金配分金事業、資金貸付事業、心配ごと相談事業のみを行っていました。その後、老人福祉センター・障害者通所施設の受託運営、介護保険関係事業などを開始するとともに、福祉ボランティアのまちづくり事業、ふれあいのまちづくり事業などを開始し、様々な福祉事業を展開してきました。

平成 17 年 2 月には旧楠町社協と合併をしました。現在は、総務課・地域福祉課・福祉支援課の 3 課に職員 268 名の体制で、地域福祉活動支援、ボランティア活動支援、成年後見、介護保険・障害者福祉サービスなどの業務を行っています。

四日市市社会福祉協議会 組織図



(2) 課題

四社協の現状と課題を把握するため、階層別に次の取り組みを実施しました。

- ◆管理職を中心とした職員…… 全国社会福祉協議会が作成した「市区町村社協経営指針に基づくチェックリスト」を活用し、「法人経営部門」の自己点検を実施
- ◆非役職者を中心とした職員… 「将来どんな四日市市社会福祉協議会にしたいか」をテーマに今後取り組みたいことなどについてグループワークを実施

「市区町村社協経営指針に基づくチェックリスト」による自己点検の結果 ① 計画的な経営 ② 人材確保・育成・定着 ③ 財源 ④ 構成員 ⑤ 行政とのパートナーシップ ⑥ 広報、情報発信	・ B C Pが策定され、定期的な訓練等が実施されている ・ 財務、法務、リスクマネジメントなど話し合い判断する仕組みが不十分である ・ 日頃の懸案事項について職員が部署を横断して話し合う仕組みが不十分である ・ 社会福祉士などの資格所持者が増え、専門性の質が担保できている ・ 資格取得支援制度及び資格手当制度がある ・ 職員の育成、定着支援の仕組みが弱い ・ 自主財源が少なく、公的な財源の割合が高い ・ 職員が地域に出向く機会が多く、社協事業等への協力を依頼する機会が多い ・ 市職員の派遣制度など、行政と良好な関係が構築できている ・ 多様な広報手段がある（広報紙、HP、SNS） ・ 障害者雇用について法定を上回る雇用率となっている ・ 職員の働きやすい職場となるよう待遇面における改善を行っている
グループワークの結果 (今後取り組んでいきたいこと)	・ オンライン、オフラインコミュニティに参加し、多世代へのアプローチについて学ぶ ・ 法人内インターンシップの実施 ・ I C Tを活用した業務改善、業務効率化 ・ 部署を横断した話し合いなどの仕組みの充実 ・ S N Sを活用した情報発信 ・ 四日市市社会福祉協議会の認知度アップ ・ 企業や地域団体等とコラボしたイベント等の充実

(3) 基盤強化に向けた取り組み内容

以上の結果から、今後の法人運営の基盤強化にあたって、まずは四社協の職員としての資質やめざす姿について、次の通り位置づけます。

四日市市社会福祉協議会の職員としての資質やめざす姿

(職員としての資質)

- | | |
|--------------|------|
| ①共感力 | ④探求心 |
| ②コミュニケーション能力 | ⑤協働力 |
| ③問題解決能力 | ⑥発信力 |

(職員としてめざす姿)

- ・住民や地域が抱える様々な事情に寄り添い、思いを実現できるようにともに考え行動し頼りにされる職員
- ・社協職員としての価値観や使命感を共有し、仲間（職員）を大切にできる職員

さらに、今後の取り組みとして、以下の3点を位置づけ、組織内で共有を図り、取り組みます。

1. 職員の採用、育成、定着を図るための取り組み

(職員の採用)

- ・四社協への興味・関心が増えるよう、まずは四社協の業務内容や職員としての資質・めざす姿などをホームページやSNSなど様々な方法で発信し、積極的にアピールします。さらに、先輩職員の声などを発信し、入職後のイメージややりがいを感じ、入職を志望する人が増えるように取り組みます。
- ・求人サイトなど様々な媒体を活用し、求人情報がより幅広い求職者に届けられるように取り組みます。

また、就職活動の状況や条件をしっかりと把握し、給与水準の見直しや新卒者及び職務経験者を分けて採用試験を実施するなど、エントリーしてもらいやすい環境整備に取り組みます。

(職員の育成、定着)

- ・階層別・専門分野別の研修の実施
特に、新卒者や他業種からの新入職員の研修プログラム充実に取り組みます。
- ・計画的なジョブローテーションの実施
業務が多岐にわたり、地域福祉推進部門、総務部門、委託事業部門など「縦割り」での組織体制となりやすい傾向がありますが、各職員が異動を能力開発の機会ととらえ、

多様な職務経験をすることで幅広く知識や技術を習得することができます。また、各職員の適性を確認することにより、適切な職員配置ができ組織力や業務遂行能力の向上とともに職員の定着につながります。

2. 働きがいがあり働きやすい職場環境をめざすための取り組み

（働きがいの向上）

- ・ 職員一人ひとりの意見を取り入れる仕組みを構築し、働きがいのある職場づくりに取り組みます。また、各部署における成果などを共有し、各部署が企画したイベントなどへの参画を増やすなど「縦割り」になりがちな組織に横串しを通し、社協職員としての共通意識、社協全体のコミュニケーションを高めます。

（ワークライフバランスの推進）

- ・ 時差出勤などの柔軟な勤務体制や、育児や介護、療養などに対応した多様な休暇制度、時間外勤務の削減など適切な労働時間の管理により、職員のワークライフバランスを推進します。

3. 安定的に法人運営を行うための取り組み

（財務の健全化）

- ・ 管理職だけではなく、予算管理と経費削減を各職員に意識づけします。管理職は収支のバランスを常に把握し、経費の削減により適切な事業運営に務めます。

（ＩＣＴの活用及びアウトソーシングの導入による業務の効率化）

- ・ 限られた人材を有効に活用し負担軽減を図るため、ＩＣＴを活用し情報の共有や管理だけではなく、ＰＣなどの資産管理等の業務の効率化を図ります。また、労務管理の一部など専門性かつ事務量が多い業務についてはアウトソーシングの導入を検討します。

（総務部門の強化）

- ・ 安定的な法人運営には、財務・労務・人事・ＩＣＴなどを担当する総務部門の強化が必要です。しかし、専門性がより高度であり事務能力・適性も問われるため、税理士や社会保険労務士、システム保守管理会社等との連携を強化し取り組みます。

（行政とのパートナーシップ）

- ・ 地域福祉の推進には、行政とのパートナーシップの強化が必要です。社協の役割や行政の施策の方向性を共有します。法人の財源の多くの部分を占める補助金や受託金については法人運営にかかる間接経費の算定など適切な予算措置が図られるように、行政と定期的かつ継続的な協議を行います。

第7章 計画の推進にあたって

1. 市地域福祉計画との一体的な推進

本計画は、第1章の「2. 計画の位置づけ」で示したとおり、社会福祉法第107条の規定に基づき策定された市5次計画の行動計画として位置づけられるもので、これと連携を図りながら地域福祉を推進するものです。

地域福祉計画が「地域福祉を推進するにあたって市として各計画の共通する考え方や、基本的な方向を定めること」に主眼があるのに対し、地域福祉活動計画は「地域における福祉活動を具体的に定めること」を中心的な目的としています。従って、地域福祉を総合的に推進するためには、地域福祉計画と地域福祉活動計画を「車の両輪」として取り組んでいくことが大切になります。

本計画を推進することにより市5次計画に掲げた目標が達成されるよう、四社協と、地域福祉計画の所管課である市福祉総務課においては、事業実施レベルでも連絡・連携を密にすることはもとより、高齢、障害、子育て、生活困窮などの各福祉分野、並びに重層的支援体制整備事業との連携も強化していきます。あわせて、市に対して必要な財源の確保などを働きかけます。

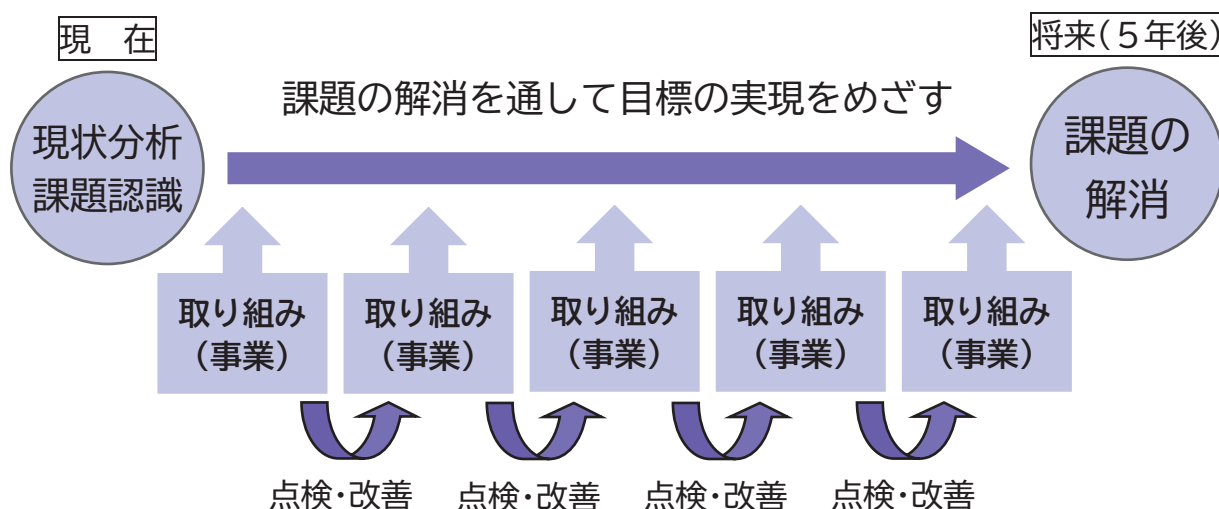
また、本計画の推進には、地域福祉活動を担う地域住民、民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、ボランティア、NPO、当事者団体、企業その他関係団体等の協力と参画が不可欠です。このため、広報及び出前講座など様々な機会を通して本計画の考え方や内容について発信し、周知・啓発を図ります。

2. 計画の進行管理

本計画では、個々の取り組みを課題の解消につなげることを通じて、市5次計画と共通する基本目標と、基本理念である「安心して暮らしつづけることができる『福祉のまちづくり』」の実現をめざします。

よって、本計画の推進にあたっては、毎年度、各取り組み（事業）が課題の解消に向かっているかどうかを基準として点検を行い、翌年度以降の事業の改善を図ります。

〔進行管理のイメージ〕



なお、取り組み状況の確認にあたっては、民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、ボランティア、NPO、当事者団体、企業その他関係団体等から外部ヒアリングを行うとともに、職員による検討委員会を実施し、課題の解消状況を把握します。毎年度、理事会、評議員会において、計画の進行状況について報告します。

取り組みの類型ごとの「進行管理の基準」

取り組みの類型	量的にとらえるもの	質的にとらえるもの	組織や連携に関するもの	市民意識に訴えるもの
進行管理の基準	増加 ・ 減少	向上 維持 改善	設置 拡大 ・ 廃止 縮小	周知 高揚

おわりに

今回策定される地域福祉活動計画のコンセプトは、一言で言えば互いに支え合い、助け合うことのできるコミュニティづくりということに尽きると思います。近年、仕事と育児の両立、老老介護、孤独、認知症、経済的困窮などが社会問題となっていますが、かつては家族、近隣、職場（企業）などのコミュニティがこれらの問題に対するセーフティネットとして機能していました。しかし、核家族化、高齢化、雇用の流動化などによって従来のコミュニティは脆弱化あるいは解体されつつあります。他方で、行政は制度上の要件が整わなければ手を差し伸べにくく、しかもその多くは可視化されにくいため、何らかの問題が発生しても事後的な対応になってしまうことがほとんどです。社会の変化に公的な対応が追いついていないのです。その結果、生活していく上で受けるリスクを個人で処理しなければならなくなるという、いわゆる「リスクの個人化」が進行しつつあるのです。これに対しいかにアプローチすべきかを提起したのが今回の計画です。



しばしば誤解されがちですが、コミュニティの支え合い・助け合いを重視することは、公的サービスを個人やコミュニティの活動に丸投げすることではありません。むしろ、社協や行政は、個人やコミュニティでは不十分なこと、できないことを積極的に補完する役割にシフトしていくことが求められるのです。支え合いや助け合いが積極的、持続的に行われるような社会基盤を整備することも必要です。個人やコミュニティは「政府のリストラ」による隙間を埋める存在ではなく、個人やコミュニティが社会の中心であり、その活動を支え、そこで生じた問題を補完する役割が政府にあるという捉え方をすべきなのです。

このように個人・コミュニティと社協・行政の関係を捉え直してみると、改めて問われるべきは、公的団体は単に公的サービスを提供したり資金を分配したりするだけでなく、いかに個人やコミュニティに寄り添えるかということになるでしょう。現在福祉サービスの多くは外部委託されていますが、「誰に委ねるべきか」ということももっと真剣に考える必要が出てきそうです。そうした点からすれば、社協に求められる役割はますます高まるはずです。本計画が、個人・コミュニティと公的団体の関わり方を再考する契機になることを期待して止みません。

第7次四日市市地域福祉活動計画策定委員会

委員長 原田 晃樹

(立教大学コミュニティ福祉学部 教授)

卷末資料

1. 策定体制（策定委員会委員）

氏 名	所 属 等	備 考
原田 晃樹	立教大学コミュニティ福祉学部 教授	委員長
高井 俊夫	民生委員児童委員協議会連合会 会長	
中川 浩一	地区社会福祉協議会 中部ブロック（中央地区）会長	
伊藤 清信	地区社会福祉協議会 北部ブロック（海蔵地区）会長	
豊田 昭夫	地区社会福祉協議会 南部ブロック（高花平地区）会長	
今村 敏明	老人クラブ連合会 副会長	
伊藤二時子	母子寡婦福祉会 会長	
井上 雅之	身体障害者団体連合会 会長	
清水 章史	私立保育園連盟（かわしま保育園園長）	
市川 和彦	四日市市健康福祉部長	

（順不同、敬称略）

2. 策定経過

年月日	主な内容
令和6年8月1日	第1回策定委員会 ・「第1次～第6次地域福祉活動計画」の経緯について ・「第5次四日市市地域福祉計画」の概要について ・「第7次地域福祉活動計画」の策定方針（案）について ・「第7次地域福祉活動計画」策定に向けた課題シートについて
令和6年11月14日	第2回策定委員会 ・「第7次地域福祉活動計画」策定の背景、四日市市の地域福祉計画の概況、計画の基本的な考え方、地域福祉活動計画の具体的な取組、基盤強化について ・ワークショップ「今後の活動の中で力を入れて取り組みたいこと」
令和7年2月6日	第3回策定委員会 ・「第7次地域福祉活動計画（案）」について ・ワークショップ「第1回・第2回を振り返り、今後取り組みたいこと」

発行：  社会福祉法人 四日市市社会福祉協議会

〒510-0085 三重県四日市市諏訪町2番2号（総合会館2F）

TEL 059-354-8265（代表） FAX 059-354-6486

ホームページ <https://yokkaichi-shakyo.or.jp>